

野津原方言集

続編 7



野津原方言集 続編No.7

表紙画……………松本英明
題字……………姫野順子
カット……………那須政子

ご協力いただいた皆様

岡本政雄〈野津原〉、川西哲生〈呉市〉、森崎フキ〈臼杵市〉
河村アヤ〈大分市〉、佐藤厚士〈直入町〉、安達延子〈大分市〉
和田サツキ〈野津原〉、斎藤きみえ〈野津原〉。
大分市立のつはる少年自然の家、野津原公民館。

参考資料

文化財調査こぼればなし〈石原美希構成〉
野津原歴史記録会〈故郷振興記録会〉
読み聞かせ資料〈野津原読み聞かせ支援会〉
なつメロ会司会進行資料〈企画委員会〉
野津原文化協会演劇部会資料〈舞台劇研究会〉

平成17年10月吉日〈通算15号〉

870=1221 発行 野津原大字今市小原 野津原方言調査会
☎ 097=589=2807
870=1203 事務局 大字野津原 野津原方言調査会事務局
☎ 097=588=0092

野津原方言集 続編No.7…調査集収、編集構成、印刷、製本

甲斐英行、小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。

多くの皆様のご愛読に支えられて『方言集続編No.7の発行』が出来ました。改めましてご好意に感謝し、ご支援に対し厚くお礼を申し上げます。素人ばかりの收拾構成ですが、編集、印刷、製本と会員は余暇を利用しながら、皆様の心に支えられて、ここまで辿りつく喜びも満喫して、残せてよかった夢も叶いました。

今回も『五助の民話』から方言単語の追加…はひふへほ、まみむめも、やゆよ、らりるれろ、わ、まで入り、調査方言単語は総計が18022語になりました。勿論この中にはダブった方言もあると思いますし方言ではない言葉もあるでしょう。でも先人たちの生活用語であった『野津原の方言』が今日まで脈々と生きていた、その事実は誇りであり感謝して評価したいものです。

方言を挿入して構成した『おしゃべり』民話を構成した物語。読み聞かせで小学生がとても目をキラキラ輝かしたお話伝承、昭和35年前後の農村作業風景〈1月…6月〉。古い唄、新しい歌。ちょいと一服。などがあちらこちらにちりばめて読む気持ちにお応えするよう工夫も致しました。

方言の面白さは何と言っても底ぬけに交わる気持ちになれる事。素人が作った冊子だから憎めない。面白さについ釣りこまれるなど有難いお便りもいただきます。取り組んでよかったと有頂天になって14年余りが過ぎましたが、皆様方の支えが支援協力があったから、いわば愛読者の皆さんが作ったようなものです。

次回は…続編No.8は古い農作業の思いで…7月から12月までなど、五助さんの話も弾む、季節の話題、そして方言子供の世界なども盛り込む予定にしています。引き続きのご愛読いただければこの上ない幸せと思います。健康管理に心くばりされての日々をご自愛くださいますように、ご祈念申しています。たった一度きりの人生です、心豊かに有意義に。お祈りしています。

★★ もくじ ★★

方言単語〈は〉……………	5	民話伝承……………	6 7
五助の民話から……………	8	日ごろ往生……………	6 8
〈ひ〉……………	9	威信かけた橋……………	7 2
五助の涙……………	1 1	住みついた青大将……………	7 5
〈ふ〉……………	1 2	方言単語〈ら〉……………	7 7
〈へ〉……………	1 3	〈り〉……………	7 7
〈ほ〉……………	1 6	〈るれろ〉……………	7 7
情けは人の為ならず……………	1 9	〈わ〉……………	7 8
親娘たーいいもん……………	2 2	方言の話し解説……………	8 0
朝草切りん花が咲く……………	2 5	古い唄、新しい歌……………	8 1
ちょいと一服……………	2 9	山恋おろし……………	8 1
五助んあげな話こげな話……………	3 2	お雨さま……………	8 1
烏は飛んで行く……………	3 7	宇曾山様も……………	8 2
〈ま〉……………	3 9	野津原ふるさとまつり……………	8 2
〈み〉……………	4 1	男の喧嘩唄……………	8 3
〈む〉……………	4 3	馬子唄……………	8 4
あんな話こんな話……………	4 4	ホウチョヌベヌベ……………	8 5
〈め〉……………	4 6	方言子供ん世界 B……………	8 6
〈も〉……………	4 7	ばばさんのお使い……………	8 7
方言子供ん世界 A……………	5 0	犬の恩返し……………	9 0
おにぎり……………	5 1	農村の四季 S 3 5 年前後	
テマリコとデンデンムシ……………	5 4	1月……………	9 3
ままごと……………	5 6	2月……………	9 4
ダンゴ汁……………	5 9	3月……………	9 5
〈も〉……………	6 0	4月……………	9 6
〈や〉……………	6 2	5月……………	9 7
〈ゆ〉……………	6 3	6月……………	9 8
〈よ〉……………	6 4	五助ん涙……………	9 9

五助ん涙むげのこされ……	102	結び……	104
ちよいとひとこと……	103	続編No.8の予告……	105

今回もご愛読いただきまして 厚くお礼を申し上げます。
皆様方のご意見、ご小言、資料などを参考として 方言世界の記録残しは思わぬ成果で 故郷の古い生活文化でもある方言が記録されました。取り組んだ証はきっと 歴史の中に皆様の情愛と共に 残ると信じています。



方言の面白さに魅力を感じる 中学生は夏休みの取り組みに方言も 仲間入りさせてくれた。それは無理強いではなく ほんの流れの中から心に残った情愛が そうさせたのかも知れない。先人が昔から書くことより話す〈放す、離す〉方言 それらの中に語る〈仲間に入る、輪に入る〉ことの大事さを 見取ったのかも知れない。

小学生に『読み聞かせ』で決まりきった本より 民話伝承などを構成して方言を少し 染みこませてみると人の優しさ 心が伝わるように思われる。いや今はそうで無いかも知れないが 心に残った話の中身には常に 方言のもつ大切な人の気持ちが 注がれているからかも。目をキラキラ輝かせて聞くのは 何か欲望が汲み取れるようにも感じられます。

だんだん忘れられ使わなくなる反面 方言はお国の手形などとの表現のように 故郷がある人間の誇りや大切な 心が潜在しているからだろうと思える幸せ。この15年間に調査して振り返ると それは無駄ではない大切な 無形文化財の保存に取り組んだ 大きな仕事であったのだと今は 自負もしています。

方言学

は

五助ものがたり



は ハイリテーキユウタ…入りたいたので言いました、結いました。
ハイツグバッチコトワリュウ…ひれ伏してお詫びを言う、する。
ハウゴタラヨナケ…這うなら夜中に、通うなら夜になって。
ハウナラタタニャノ…性交に来たのなら勃起しないと。
ハエタカチキイチョケ…生えたのか確認をしては、確認する。
ハエタテンチットド…生えたと言っても少しです、うぶ毛かな。
ハオリャメッテキランキ…羽織は着る機会が少なく、時たま。
ハオトイジ…準備して待ち構える、相手の泣き所を曝す。
ハカッテンカルナラン…幾ら計り直しても変わらない。正直。
ハガユージホエン…肝心な時に勃起が出来ず相手を惨めにする。
バカンサンバイジル…他の事は出来なくても食うことは確実。
ハギリャユーネー…後味が悪く決まりがつかない、尻すぼみ。
ハグリャミスルケンド…はぐれば見せるけれど やはり乙女。
ハゲチャビンデンイイ…剥げていても惚れたら日本一好男児。
ハゲラシュウジオジイ…怖いようないら立ちでそれで見たい。
ハケーイキャシマイド…埋葬されたら終わり、生きてるから花。
ハゲラシュウデンコライ…歯がゆくても我慢しなさい。忍耐。
ハコーソウジスリャボン…墓掃除で盆を迎える区切り。
ハコビャヒヨコグサ…はこべはひな鶏が好む草、
ハザコナラワレキイイ…肌木なら割木に適材、割れやすく丈夫。
ハサンジウップル…挟んでひどく振りまわす、乱暴に振る。
ハシカキスンナ…箸を作りますか、竹を削って上手に箸にする。
ハジグレーカケ…恥をかく位の勇氣も必要、それで成長も。
ハズルリャハサミコメ…外れたら挟んで入れなさい、つまんで。
ハズージョリャキコエン…弾んでいる時は聞こえない、真剣で。
ハゼニャマケテン…鯨にゃ負けても親には負けない努力を。
ハゼタラクワルル…煎って皮が割れたら食べられる、焼けたら。
ハソージキモチャイイガ…挟んでぬ暖もる感触は、肌触り感じ。
ハソージョカニャヌクルド…挟んでおかないと抜けてしまう。
ハダギューニージ…肌着をぬいて、裸になって、それからは。
ハダギューマクリャノヤ…肌着の下から覗いたものは。



は ハタンコチシチョク……………ほかの人の事にしておくがよい
ハチワルリヤイチニンマエ…女になったら一人前、性交されたか
ハチンコワウメー…蜂のさなぎは煎れば美味しい、蛋白源になる
ハッチーモクオミル…物貰いも時には気を使う、世渡りが下手
ハツラルリヤハラントツ……………頬を叩かれると腹が立つ
ハツヤメイコカ……………年明けに初めて行く山仕事
ハトムニヤニギリモウサン…胸が大きく握るのに骨折る嬉しさ
ハナガサクオナゴゴケ…後家になると花も咲く、幸せな女の晩年
ハナノウチカル……………始めのうちから、最初から解っていたが
ハナトニクナ……………端っこに行くと危険、回りには敵がいる
ハナデンサキデン……………始めでも先でも、理屈は同じ事だけど
ハナカルイラブカス……………最初から騙す、計画的にごまかす
ハナタレナコマル……………鼻緒がゆるいのは履きにくい
ハナカルムテーナ……………最初から無理難題を、計画的に陥れる
ハナタレムスメザカリ…鼻たれと思っていたがもう色気盛り
ハナシャニグルド……………放したら大物を逃がす話はよくある事
ハノーフィチハヨキー…第一印象を、きれいにしておいて早くおいで
ハノアカサレチフウゲネ…急所をつかれて面目もないありさま
ハノートッチクリー……………牛馬の鼻先を引いて田んぼを耕す
ハノモタスリヤトクスル……………相手に乗せておけば得するよう
ハハジョウワミセタド…母親は子供の言う事には叶えてくれる
ハビコッチクオミル…増えすぎて苦勞する、撒きすぎた種問題も
ハプリンイナイトキ…威張ったとてほんの一時の話、景気
ハブラケーチアメーシル……………ごまかして旨い事になった
ハボウミリヤウラヤマシイ……………急に富豪になったのを引け目に
ハボウヤッテンシレ Chol……………俄か富豪は中身が知れている
ハマラメトンイウ……………歯と男性器と目の順に弱るとえ
ハマルタワキオツキーすぐ……………応じる性器にゃ用心せねば
ハミューハリコメ…牛馬の餌は惜しまずにでないとな率が悪い
ハミューヤラニヤムゲネー……………牛馬の餌は惜しむな可哀相
ハミューハズシャアブネ……………摂理を曲げると理屈が通らぬ

は ハムルンナイマド……危機一髪の時、性交なら今がチャンスです
ハメソコナヤデチシマウ……入れ損なうと漏れてしまう
ハメタカコイツ……目的果たしたですか、旨くおさまったですか
ハメマラチャトシジャノ……歯や目が悪いとは年ですね
ハヤカリヤイモンジャネー……早いからよいとは限らない
ハヨスミャオテツク……早く済んだので安堵した
ハラマジャミセテン……腹までは見せても後は花です
ハラハチバホルルド…遠慮するだけの器量が、見かけ倒しは困る
ハラゴミュシャントセニャ……内ごめが肝心、内輪の団結が大事
ハラゴミュウシヨしっかり……内部を固めて、内輪もめは危険
ハラハツョル……腹八分が健康の元、欲張りもほどほどに
ハルトオキサニャナラン……一毛田を起こして準備する
ハルコージョキナー……しっかり頑張っておきなさいよ
ハリナベンメシャ……張り子一杯の飯、鍋いっぱいになって
ハリグレモッチョレ……針くらいは常に持参していなさい
ハルオビュシミー……牛馬の腹の帯をしっかりと、きちんと準備
ハレモンニャキオツキー……腫れ物には注意しないと酷くなる
ハレヒトツナエ……腹一杯に、思わぬご馳走になって
ハロウタテテンモウカラン……腹立てても儲けにわならない
ハローセカスル……腹痛を起こして、食い合わせが悪くて
ハクナスミガオモ…掃除は隅が肝心、見えない場所をきれいに
ハンドンミダークサラン…水桶の水は腐らない 使うから生きる
バンザイシタ……手をあげてしまった、失敗した、喜びの歓声
ハワイトラアトカタズキュ……掃除より後片付けが大事
ハヤリャセンコツスンナ……思い込みは失敗の元、短慮は危険

2つの方言が連なると言葉の意味が 多様に解りやすくなりますから 方言の面白さも現れます。ハローセカスル…腹が痛む事や腹が痛いような感触、気持ちの発言が待たれる、思っている事を早く聞きたい、解っていても直接発言させる などと前後に連なる言葉によっても 多種多様に別れて行きます。



五助展語

方言單語のふんば



馬子ん五助さんな里の人気者

里ん一の瀬渡しん側に居る 五助さんな話上手じ 年寄りかる若いしまじ誰とでん話しゅう合わせち 皆かる頼られちよる。相談ごとかる喧嘩ん仲裁 夫婦んあれこれん飛びこみ頼まるるき 呑気に『うろいよこい』も出来ん。今日も朝かる雨じゃもんじ 朝寝をしゅうち思いよったら だまし娘 おみつが寝間に飛びくうじ来た。

『ちょうど早う起けにゃおおごつ』『なにや宇曾山でん爆発したんか』『それどころじゃねーで』目をこすり尻べらを叩きながらゴソゴソ 出てきたが大けな欠伸。そりー吸い込まるりゃしめーかち おみつは飛び下がった。『ふんともう あぶねーじゃねーな』親が親なら娘も娘 おもしろ家が揃うたもんじゃ。

お里が『相談があるきち 来ちよるで』『こげー早うや 何事かのー』 五助が気の進まん嫁ごん世話をした おみつと仲良しん娘じゃった。ふうゆう ありついたち喜くうじ帰ったに 今頃になっちどげーしたんかのや…五助は人のごつー言いながら ひょいと見ると ござん戸口じ泣きよる。

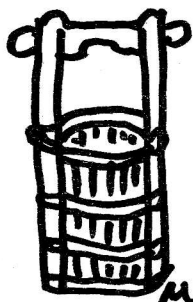
『どげーしたんか お里』『……』『黙ってちよたんじや解らんど まあ上がれ』『……』 お里は言われるままに 上がり座敷かる上がりくうだ。『こっちに来なー 何があったんか』『……』 口ごもっち話さんもんじゃき おみつが聞いちみた。『あんな 話さんと返事が出来んこと どげしたん』

『ちゃーらまあ 3べんもえー元気じゃなー』 おみつも呆れたけど若いき無理もねー。五助に話した 『あんな3べんもありゅうしたんと』『やーふんどのや』 三人が顔合わせちさもなん。「お里お前ゃ元気もんの婿じょうじ運がいいのう」 五助も口水が出そうじゃったぬ えーところえた。ふんどのや。



お里は真剣嬉しいぬ世話になる 五助に知らせたかったんじやろう。『えーし今しがた帰っち来ち』 もう嬉しいのが顔じゅうに出ちよる。『一番は米1俵じったんで』『それじ何番勝負じか』『3ベン目にえーと勝ったんと』『やったのー 一時ゃ米飯が食わるるのー』 皆が喜びう分けおーた将棋ん試合じやつた。

ひ ヒーヒーユウナ……………泣き叫ぶものじゃない
 ヒアイワタケ……………借った利子は高い
 ヒイチクレナー……………引っぱってください、差し引きして
 ヒエクウジ……………寒さが増して、弱音に困惑して
 ヒエダニナツタド……………稗が多くなった田んぼ
 ヒオケセヤ……………火の用心をして、噂の立たぬうちに
 ヒガマンデンヨカロウ……………いじけなくても、誤解は困る
 ヒガンノチュウニチジコクモヤスミ……………仕事は今日は休みに
 ヒキドキモノヤ……………人間の対処進退ははっきりと、決断力
 ヒクーシチタノメ……………平身低頭して依頼する、無理に頼んでは
 ピクットシタトキガイイ……………性交の頂点は幸せの満喫
 ヒキズリャウクル……………舞台の晴姿は千両役者、目を魅く晴姿
 ヒゴノカミヤコガタナ……………子供の小刀は肥後の守と言う
 ヒサシケーチオモヨトラレタ……………油断した大家の無精者
 ヒシモチャムスメ……………ひし餅は女の子のシンボルに似合う
 ヒズーデンハリコメ……………辛くても努力が芽を出し実をつける
 ヒズネークレージャモウカラン……………苦労してこそ宝も入る
 ヒゼンナハヨナオセ……………皮膚病は早めに治せ、移る危険がある
 ヒダリュウジタマラン……………空腹でたまらない、ひもじい腹も一時
 ヒチメンドクセー……………面倒くさくて、複雑な仕事や作業
 ヒドルカオソカ……………後下がりますか押しましようか、後か前か
 ヒドッチョル……………下がっています、ハックしているようです
 ヒトンガンナワガモン、人の物は我が物、勝手きままな、るーず
 ヒトハズミンハナシー……………瞬の出来事、咄嗟にあった話、瞬時の事
 ヒトンダデケタひと……………荷物出来ました、牛馬に背負わせる荷物



ひ ヒトニギリジイイキナ……ほんの少しでよいから、気持ちだけで
ヒトクチトハタテラレン……他人の口に乗らない工面
ヒナテマトホス……日当たりに股を開いて、ちらり見えたかな
ヒネテンウルル……傷みかかってもよい品物なら、誠心誠意で
ヒノケンネートコリ……噂がたったら始末が悪い、早めの消し止め
ヒノボリャユウヒル……日があたると乾燥する、恵みに感謝
ヒノツジャユウヒル……日中はよく乾く、太陽のありがたさ
ヒノシマツユーシヨ……火の用心は泥棒より怖いから
ヒバリャムギンナカド……麦の中は雲雀だから気を聞かせて
ヒバンノチョコシゴト……火番をだしの酒飲み、理由は何でも
ビビギレナマミソ……ひびには生味噌が効果、応急治療で
ヒブリジサカノトル……火をともした魚捕り、夜の魚取り技法
ヒボシンツマミグイ……空腹につい盗み食い、追い詰められるな
ヒボシャナンナ……食べ物もない人間にならぬよう
ヒマコスツカイヨウ……時間は使いようで生きる、有効利用
ヒマツクラニャデケン……時間は作り出すもの、余分な時間はない
ヒマチュウタジャネーカ……暇と言っていたのに、騙して逃げ口
ヒマントキアスビキイ……暇ならお茶のみおいで
ヒミンズラキガヨエー……気弱な人は損をする、恥ずかしがり屋
ヒムキャスミイイガ……南向きは住宅向き、環境抜群
ヒメガワトクジャ……美人は七難逃れる、美人は得する
ヒメヨリャキガヤサシイ……美人よりも気が優しい人
ヒモムスビグレオポイー……簡単な結び方くらい常識で
ヒユーハリコメノ……日当を多く払ってください、ご褒美も添えて
ヒユートリンコゼニタメ……働き者の貯金を残す、日頃の努力
ヒョカッツイイハナシ……急によい話、棚からぼたもち、幸運
ヒヤイニオイカケラルンナ……利子に苦勞する、経済観念を
ヒヤイニャクオミル……借った利子払いに苦勞する、計画経済を
ヒユウトリモサキャノムド……辛抱しても人並みの付き合い
ヒヨエーナヨロケ……弱々しい人は病身、色白はどこか持病が
ヒョカッツイウキタマガル……急に言うから吃驚する

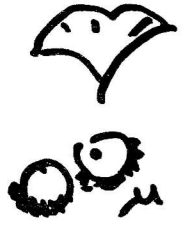
ひ ヒランノカ……………千上がらないのですか、乾かないのですか
ヒログリャオオゲナシド……………見かけより大きいから、大ふろしき
ヒロツクヤツニャヤンナ………………食い意地悪い者にはあげない
ヒロゲチチシカブスル………………広げて覆い被せ、予期せぬ出来事
ビンボウバナサクオトコゴケ………………男後家には蛆が湧くとか
ヒンミイチョル………………目を見張って品位の無い、下品な姿格好
ヒンモシャシャラモネー………………なりふり構わない、下品な姿勢
ヒンミーチメンドシイ……………目を見張って下品な形相、品位の無い
ビントヌチチマエーチ…頬ぺたを酷く叩かれて、乱暴な仕打ち
ビンボユスリャヒンガワリ…貧乏ゆすりは下品な動作、無意識も
ピントタチャショワネー……………勃起すれば健康の証、朝立つは元気

五助の涙

気がすすまんち言うけんど 大方んしがいいち思う相手に嫁ごに行つた娘。五助が風邪じスワムクき そげな連絡受けたものじゃき飛うじ来た。楽天家ん五助はそ知らん顔じ 笑うち『心配かけたのう 世話ね一き』ち 笑うち見せる。横顔う見ると元気そうなんにほっと 安心しち『仲ゆうしよや あん婿ジョウハいい男ど』 そう言われるとマンダラでんねー 自分に言い聞かせち胸なでおり一た。

『ぼちぼち帰らんと ダンゴ汁炊きよせんど』 五助は折角来ちくれたんぬ 追い返すごたるが フウユウ行きよんぬー 波風立てとうはねー。それが自分が風邪じゃち呼び戻したなんか さぐられる事ちなりゃ尚更んこつ。『オカサンに断わっち来たき しょわねえき』 そこまじ気くばりしよるぬ知ると もう涙がコボレチ腰ん手拭いを引きずり抜いだ。『おおきに おおきに』 そんなアター声にならん五助。そりゅう見ち そんな若嫁ごも泣き出えた。真剣抱き締めて一ぬえーと堪えち 開けた目に笑顔がゆう見えた。

ふ フーイーチオムーチヨル……運がよいと思っている
 ブーブクンナー……水をください、
 フューデケタデ……旨くいきました、上手に出来た
 フータンガフクロージュル……頬がふくらんでいる
 フイタニマタヨゴス……拭いてあげたに汚した
 フウワリーナコライ……機嫌の悪いのは我慢しなさい
 フエタナメデテー……多くなったのは良いこと、出産の喜び
 フエチヨリャユウヤッタ……多くなって褒めましょう、豊作の年
 フオミヨタナマイキナいい……気味とは横着な、嫌味の挨拶
 フカンジョツテン……拭かなくても、きれいにしなくても
 フカンママジャワリー……拭かないと不潔、きれいにしないと
 フキュクレタド……露をいただいた、露の差し入れがあったよ
 フクルリャエエラシイ……腹立てたのも可愛い、物はとりようで
 フクレマエーチ……腹立てまわって、癩癩もちも困ったもの
 フゲノースルカヤ……いじめ回すのもいい加減に、わが身を思え
 フゴードンクワルル……不合格でも立派なもの、欠け茶碗が役立つ
 ブクブクフクレチヨル……大きく膨れている、水膨れに
 ブグラブグラタギリヨル……文句をいいながら煮えている
 フサガッチヨル……閉じたようになって、閉まっている
 フジコルーユウナ……文句は言わない、愚痴はこぼさない
 フジュウミリャクモネー……不自由が常なら平気でいられる
 フシグレタッチヨル……節々が隆々としている、筋肉体格
 フスモーシメチョケ……襖をしめてください、心の隙間あり
 フスンナホドホジ……補修は程度もの、無理が効かないから
 フセテンモタンド……補修しても限度がある、品が悪いだけ
 フセモントキーマケ……伏せ物床で発芽をさせる
 フソカアローカ……不足があるものか、感謝の気持ちで
 フダンギドミレ……上品ぶる人、普段きている物、殊更着飾らない
 フチンハトヌグエ……汚れは落とさないと誤解を、後始末をよく
 ブチンサキジシビイタ……鞭で急速に叩かれる、咄嗟に痛められ
 ブチュウキッタカ……鞭を切ったですか、鞭の準備して



ぶ フツツージキタ……………慌てて走って来ました、急いで来た
 ブッパンヌアゲニャ……………仏様に供えるご飯、お供えしなさい
 フトラカシャデチイク……………育てて見れば他所に行ってしまう
 フデマメジスカルル……………筆達者は得人、便利に使われる
 フナイカルモドッタ……………江戸期間の呼び名大分から帰って来た
 フナライイゴツシチョケ……………それなら都合よいように、自由にして
 フニャクニャスンナ……………弱々しく頼りない風体になるな
 フニノルヤ……………舟乗りするの、女性と性交の話が
 フヌレデンツカイモン……………呑気者でも長所もある、見かけによらず
 フネコギユシヨル……………縁側の幸せな時間、うたた寝の妙味
 フノリャセンタキー……………海草でノリツケした洗濯物
 フネノリャコイサ……………性交の約束が今晚、海路旅行の出帆日
 フマニャトオラレンド……………踏まないと通れない道、道路、場所
 フミシラスンダカ……………苗代の区切り作業、田植え準備の一つ
 フミャメガサムルド……………踏むと目を覚ますから注意を
 フメートンセカニャ……………苗代作りが忙しくなります
 フモウカノーボチボチ……………苗代づくりをしましょう
 フヤケタナーキオツキ……………いたみかけた物には注意を
 フユタニンジャキ……………夏は団扇〈内輪〉近くて近い生活用具
 フランチュウテン……………降らないと言っても、振り回さないから
 フリマエータント……………振り回したようです、大番振る舞い
 フリマクッチカル……………大降りになってしまっ
 フルチャタマラン……………古くなった物は長く使えない
 フンナイイカンシレン……………それならよいでしょう
 フントイインカコレデン……………本当によいのですか



へ ヘーバロウチカル……………腹ばいになってから
 ヘーカルスルンカ……………こんなに早くからしてもよいですか
 ヘーチョキャイイ……………履いておけばよい、掃いておきます、
 ヘーカラキテンイイカ……………こんなに早くから来てもよいですか
 ヘイテイニイクド……………兵隊検査で合格して入隊が決まる、徴兵検査

へ へーカルネルンカ……もう寝るのですか、こんなに早くから寝る
へイキンヘンザエモン………何のくったくもない性格の人
へオタレサゲーチ………おならを出し放し、あらましの人物
へキデンジャメナル………側でも邪魔になる、嫌われ者
へキオキャミカタ………側におけば役に立つ、予備に必要な人
へキナラアマイー………側なら甘えても、気持ちが解っているから
へキイキャアブネー………端っこは危険だから、隠れた危険場所
へクカキャスモウ………褌は相撲の衣装、準備が大事
へクケーテンイイド………褌をして準備が出来た、男の下着
へクジョリャキオツキ…粗雑な商品、へこんでいる場所は用心を
へケモケスル………ひやひや心配する、気がいらいらする
へコンセンタクシヨ………天気がよすぎりから明日は雨か
へコンシタホシガルナ………褌の下が欲しい、そこが楽しみと言う
へサンジョキャコマラン………減さなければ心配ないが
へシチヨキャヨカロウ………減らしておけば心配ないが
へスグレーナライルンナ………減らすくらいなら入れなければ
へセチャユウチョラン………減らすなど言っていないから
へソゴタルキトメタ………減らすようだから止めた
へソンシタサンズンニヨウジ………一番欲しい物があるから
へソンシタユウアラエ………急所はよく洗って、性器の清潔
ベタツキャアラエ………汚れたり不潔はいつも清潔にしておく事
へタバッテンナクナ………疲れても泣かない、意地をみせたらどう
へチデンヤクタツ………反対でも役に立つことが多い、使いようで
へテートリアウナ………異国者を相手にするな、反対意見は危険
へトースリャヤッコム…準備不足は火災を起こす、前準備が大事
へトシチイノチトリ…油断が命取りになる、用心に超した事なし
へトンオムチョラン………何とも思っていないです、気にしない
へナットナッチョル………しおれて元気がない、活気生彩を欠く
ベニツキャベッピン………紅をつけて更に美人に、馬子にも衣装
へニスリャオジイ………馬鹿にすれば裏戻しが怖い、油断大敵
へヌンナツカエン………曲がっていては使えない、人材は選べ

ヘ ヘヌンナアブネー……………避けたりするのは注意が必要
 ヘノコッパンジョウ……………中途半端な話だけれど、いい加減な話
 ヘバリチータナトレン……………くっついた汚れはなかなか取れにくい
 ヘバリチーチシモウタ…真剣くつついてしまった、執念がこもる
 ベピンカイイド……………肩車は子供が喜ぶ、祖父の得意な遊ばせ方
 ヘビドシャゼニコマラン…已年生まれは金に不自由しないと言う
 ベベンカオトスナ……………肩車は落とさないように、自惚れ危険にも
 ヘボタリヤツカエン……………下手の技術じゃ怖い、よく相手を見て
 ヘマヤンナトンチモン……………見かけによらない技量持ちも、特技技
 ヘモネーナアチナラン……………世話がないは世話が心配、見かけ倒し
 ヘヨチャダリユウンカ……………汚い返事は誰にする、挨拶の難しさ
 ヘラウツタオコシ……………失敗する田起こし、苦勞の割に不出来
 ヘリュフミヤクルワルル……………縁を踏むと行儀が悪い、躾教育が
 ヘルモンジャネード……………減らないけれど使って悪いものも
 ヘレトントイシャカスナ……………砥石は減るもの貸しては損になる
 ペロットタイラギヨル……………あっと見る間に食べてしまう
 ヘンチョコオヒトヨシ……………変人の割には掴み所がない人間
 ヘンチクリンノフリマワシ……………騒動返して周囲に迷惑かける
 ヘンジコマッチシャガム……………返事に困るような質問、考えなし
 ヘンチョコンドクデナシ……………変人で嫌われ者、迷惑人間
 ヘンチョコジャキ……………変わり者だから、当てにしない人間
 ヘンジャユウスルケンド……………返事だけは天下逸品だか行いが
 ヘンジュシチョツテン……………返事のわりには実行力が欠ける
 ヘンチクリンノハタラキモン……………変人だが特技をもった変人



変人がおるが普通の人かるは変人に見ゆる 然し
 そんな人は他んしが変人に見ゆるじゃろう。相手を
 身振り着物言葉だけじ 変人にするなゝ可哀相。
 それぞれが持ち味があっち 特技もあるんなら心
 ん絆が そりゅう旨く結びつけちくるる そげな
 気もするんが世の中じゃ あるめーかち思う。

ほ ホージャローチ………そうでしょうから、そうと思っていました
ホータンガオツル………頬が落ちるような美味しい物
ホーキュウヤンナ………箸を貸してください、箸をこちらに
ホイチナエ………それですから、このようになったので
ホイホイオーチョケ………気軽に追ったら、機嫌よく追いかける
ホイチカルコウスリャ………それですからこうしたらどう
ホエタカムスコ………勃起したか性器、ありがちな状況だが
ホエマクル………犬が泣き叫ぶ、性器が勃起して
ホカジャネーケンド………別の話なのだが、取り上げる程でもない
ボクットノヤ………急に、突然の事で、あまりにも予期せぬ事で
ボクジャチヒッコム………大変と身を隠す、逃げこんで難をのがれ
ホギーイレチョケ………薬細工の入れ物に入れなさい
ホゲポッポ………湯気がいっぱいになっている、湿気が多すぎて
ホケナキャイチバンド………何か汚点が、あれがなければよいのだが
ホケユーコタネー………他に言うことはないけれど、少し不安もある
ボケットスンナ………ぼんやりしないでよ、考え事はあぶないよ
ホケネーカノー………他にはないですか、他にあったのでは
ポコットシチ 突然に怒って、突然に事故になって、急に出来て
ホサンジョコウ………干さなくて格納、干さないで見合わせる
ホザカシイナイイガ………口やかましく煩いのはいいが
ホジャロウガ………そうでしょうが、そう思わないですか
ホシガッテンネー………欲しがってもないので、欲しいけれど
ホズンコターネー………びくびくする程の事もないが
ホズミュージーカキー………俵に念入りな縄を回りにかける
ボソボソハナシュ………小声で話す、ひそひそ話で
ホタリウッスル………乱暴に捨ててしまう
ホタッチョツテンコワソダツ………子供は世話がらなくても育つ
ホタラレテンシラン………捨てられても知らないから
ホタンナショワネー………捨てるのは世話はないから、捨てても良い
ボタモチャハヨクエ………ぼた餅は早めに食べなさい
ホトボリャサメチ………騒動が静まってから、話が納まって

ほ ホタンナオシナギー……捨てるのは勿体ない、まだ使える物を
ホタリケーチョル……自由気ままにしてある、当てにしてない
ホタギンオイカブシ……使い道の上手な、木の切れ端をかぶせる
ボチボチセニャダル……ゆっくりしないと疲れる、日にち葉
ポットンカ……水が漏れたのか、残されたのか、入れてくれない
ボツボツヨウテクレガ……千鳥足の酔いどれが来る頃
ホテトシイガクニナル……面倒くさいが気になる、几帳面性格
ホトボリガサムリャ……興奮がさめて落ち着く、時が葉になる
ホドホズアル……背の高さと同じ位ある、高いものの表し
ホドンホズアル……背の高さほどある、高いものの表現
ホナクシャネー……泣く人はいないから、淫らに泣くのはよせ
ホネマジカメ……骨にも栄養旨味が、カルシュームが満載
ホバラミュー……穂が一倍実を込めている
ボブスルンカ……性交するのならわきまえないと、遊びは違反
ボボスナイイケンド……性交すれば責任取らねば
ホムリャツキアガル……おだてると調子にのって、淡白細胞
ホメチョキャヨロコブ……褒められて悪気はしない、調子に乗せて
ホメラルリャテゴセニャ……褒められ手伝いする、人は使いよう
ボヤデントキニャヤクタツ……のろまでも長所がある
ホヤケンド……頑張りのない性格、あまり為にならない
ホユリャネツカスル……勃起したら納まらせなさい
ホシガルンナラヤレ……希望するならあげなさい
ホシイモンナアルケンド……欲しいものはあるけれども
ホセルリャカワクガ……干したら乾くから、感想は工面次第
ボソクレデンモユル……腐れかけても燃える、無用な物でも役立つ
ホラケーコタネーカ……弱々しくはないですか
ホランキトレンワイ……掘らないから取れない、苦労してこそ収穫
ホランジヨカタ……掘らなくてよかった、危うく掘る所
ホリカルドゲナル……それからどうしました、その後どうなった
ホリデーチミリャ……掘り出して見ると、捜し出して発見
ホリヨルカンシレン……掘っているかも知れない

ほ ホリグリマエーチ……………掘り回して、そこらを掘り起こす
ホルゴタラ……………掘るならば、掘るのであれば、掘る請負者
ホレージャチユウテン……………掘ると言っても果たして
ホレタナドキヤル……………掘った物はどこに処理する掘った後始末
ボロギレデンヤキタツ……………使い古し衣類でも再生が可能
ボロジャキネウチモン……………使い古しでも価値観のある物
ボロニャヘールナ……………危険な草むら場所には入らないよう
ホロカスユウタンカ……………悪態口を言う、暴言言葉をあびせる
ホンジャキクンナ……………それですからください
ホンナモウヨカロ……………それならもうよいでしょう、OKです
ホントナエシモウタ……………そうですかしまった、それは失敗でした
ホンナユウトオリ……………それなら言う通りに、おっしゃる通りに
ホンデンシランチ……………それでも知らないから、全く心当たりない
ホンゼンニャミヤゲ……………冠婚葬祭の膳についての土産物
ホンゼンゴシラエ……………心のこもったお膳前、冠婚葬祭のお膳
ホンノヒトニギシ……………ごく少しの物、微量だけど、気持ちだけの
ホンキンマニュシチ……………本気のような格好する、上手者の技法
ボンクラデンイトコロガ……………低能でも使い方では有能
ホンコシハリコメ……………真剣に努力して、中途半端でなく
ホンスラヤメチョケ……………本当の遊びに区切りを、誤解されないよう
ホンソベキチョルすぐ……………側に来ています、遠慮がちに側に居る
ホンナイイジャロ……………それならよいでしょう、理解しています
ホンネヲユウイエ……………本当の事を説明しなさい、真実を披露
ホンマネデムゲネー……………真似ごとでも可哀相、騙しては可哀相
ボンナモウネード……………それで終わりですよ、終了しました
ボンカルハジミー……………盆を区切りに開始、季節の作業取り組み
ボンニャアエルル……………盆には会えますね、盆休みを利用して再会
ボンジャキユルット……………それだからゆっくりと
ボンナライインカ……………それならよいですか、理解してください
ボンボンジャキノヤ……………育ちが良すぎて、世間知らずで
ボンクランツケグスリ……………低能でも使いようで、指導してあげる

『情けは人んたみーならんじわが身にも』

里ん品評会があっち片隅じソバ屋が 日ごろん世話になるきーち
安い値じ 商いをしよった。みんなも喜んじくれち よう売れちせ
わしゅうやっちょつた。そりーあつちこちかかる来た者ぁ みやげ
まじ持ちくるるもんじゃき 有難いこと。老夫婦んソバやは事ん
ほか嬉しかったんじゃろう 笑顔じせわしいなんちゃねー。

日頃ゆうしちょきゃ こげない日もある…『それにしてん さ
っきの若い人 留守番のばばさんに食べさせてー』ち 言う。泣か
さるるなえ。家ん中がなんと明るうじ 円満じ思いやりんある家じ
ろうち 目に浮かぶごたる。こげな家ん ばばさんな幸せ者 でん
若い時ん苦勞が人間ぬ そげーさせたんかん知れん。

先に来た人ぁ 朝かる年よりが ブスブス言うたもんじゃき だ
まっち来たち言う。年う取ったら年寄りも 少し控えめに又若いし
も ちった上手に利用するんが いのちき上手とん言うんじゃなか
ろうか。そきー人間の優しさも 人となりも浮き彫りさるるち思う
がのう。ソバ屋はひょいとつぶやいた。黙っち出りゅ帰りつくまじ
心配するになえ そげー思わんかなー。

老人も意地う張らんじ 若えしに溶けこむぐれーん 心くばりゅ
せんと損ぬするんじゃあるめーか。また若いしも やんがち自分ど
うも年う取る。そりゅう考ゆりゃちった 気にくわん事ぁあってん
こらえにゃ いい事んじょうはねーんが 世の中じゃろうき。これ
が なかなか難しいことじゃきなえ。

商いをしよると いろいろあ
っちなえ 人んこたーあんまり言えた義理じゃねーがな…クスナと
笑うたなーちった思い当たるんがあんのか。ソバ屋の夫婦が顔見合
わせち 大笑いしよる。まあ話が吹き抜くるごつなりゃ もう人間
も悟りが開けたんじゃろう。



難しい事じゃけんども 商売しちよるといろいろ 人間の本質なんかも解っち来る。人は大事にしちよくと それがいつかは帰っち来るもん。

そげな話が弾んじよると 嫁に出しちよる娘が来た。『儲かりましたか これ少ないけんども』 もう町娘んごたる言葉使いは ふうゆういのちきしよるんじゃろう。『いつもすまんのー それじ今日は何しな』『牛が1等になっもんじゃき 出すこちーなっち もうすぐ お義父さんも来るき ちよいと先に来ちよかんと どうくる挨拶じゃ困るき』『やーそりゃあるめーが お前ん親父ど』『それが心配じゃこと』

こりゃ おおごちなりそうじゃ。やんがちお義父さんが来たごたる。『来たらソバでん食べてもらえ』『迷子になったんじゃねー』勝手な話はいつもん事。

『今日はおおごつ寄っちよるなー』『たまがったんじゃろー今が一番多い頃かな まあこっち来てソバでん 食べちよくれ他に何もねーき』『こりゃーすまんなー』『こっち来ておかけ』 かける所もねーのに 何か人ん心を大事にする暖かな状況。『そげんこつー言うと笑わるるで』『いいじゃねーか 笑いてーしにゃ笑わせちよけ』 『お前ゃすわる所がなかりゃ 俺んヒデー座るか』『ちゃーもうふんと』

おかしい事ぁねーじゃねーか おしめも変えたんど 洗たくもしち凍っちしもうちのー ヒビは切るるわ アカギレは出来るわ のやゆう太ったものじゃ そげ一言ゃこん頃ちっと大きゅうなごたるど』『もういい 知らんで』『実はなー 腹ごもったごたる』『えー えー こりゃまあ ふんとえ そりゃまあ おめでてー』二人の親ん喜びようは やっぱ他んしが見りゃ馬鹿んごたるんかん知れん。品評会はだんだん人ん動きが多うなった。

『あーうまかった おご馳走になりました』『あげんことんじょう お構いも出来んじなえ まあゆっくり見物しち ゆっくり遊び来ちよくれ』『おおきに はりこみな一え』『おおきに ふんな又あいましょう よろしゅお願いします』 娘ん身重と聞くとやっぱ親の嬉しさもひとしお。

そうこうしよると 準備しちよつたソバもしまえた。『ボチボチかたづけするかのー』『そうじゃな一ほんな火を落とすかな』 とそんな時じゃつた。『もうソバなかりうな一』『たった今すんじな』『惜しかったな』『悪いな 折角じゃけんど』『後でんいいんじゃが欲しいけんど』『へーどんくれーいるんな』『大した事はねーが50人分ぐれー』『えー』

ソバ屋の親父が吃驚した。何でん話が広がっち一遍食べたいにそこで頼みにきたのに…それは残念じゃつたが。『でいつならいいんじゃろうか』『晩方じいいき ここまじ50人分出来ますか』親父夫婦は顔見合わせて嬉しいやら 忙しいやらに吃驚仰天した。『いいで ほんなすぐ帰って取って来ます』

汗水流して絶やさなない笑顔で はりこむ話を聞きひろがり人の耳に入る。人間は頑張っちょきゃきつといい事が来る。ソバ屋の人気を聞いてくれたこの人も 評判だけじのうじ人柄にも 魅かれたんかん知れん。50人分と言えれば大けな商いでんある。急いで準備する手先にも思わん力が入った。

夕方までに届けたソバ屋は 代金の外にも品評会に来た お客さんからご祝儀ももらった果報者。それも日頃から黙々と笑顔で皆に尽くす 人間としてん勤めをして来たからこそ こげない事もあったんじゃろう。孫が生まれるのもご祝儀の商いも 巡り会わせた人間の 『情けが戻ったご褒美かん知れん』



親娘たーいいもんじゃ

久しぶりん買い物んに出かけた旬やん 街角じひょかっとな娘に出
おうた。娘ちゅうてん嫁ごに出した娘じ もうそこん家にも馴染み
すぐるぐらいじゃつた。

『あらーどこ行ったんな』『うん ちっと買い物んがあったき』
『もう済んだんな』『済んだど お前ちっと瘦せたんじゃねー』
『ちゃー嬉しい 瘦せたなんか言うちくるんな トツタンだけじゃ
な』『そうか そりゃ親じゃきのー むげーねーきの』『ふんと
な ほんなそこじ まんじゅうでん食ぶる』『いいのー 久しぶり
食うか』

一人で買い物んなんか珍しいち思うた娘 『それじオカチャンな
どげしたん ほたっちょいち 来たんじゃなかるうな』『いんにゃ
ありゃー歌ん稽古ち 朝早うかる オシロイつけち ベニつけち
ツブシン頭はコケダラケじゃ』『好きじゃきなえ 上手になった』
『けっくしゃ 上手になったど けんど上手ち言うとな調子乗るき
天狗になりゃ困るきのや』

相変わらず口は悪いが 根がいいもんじゃき 皆んなかる好かる
るんが 得かんしれん。それが又 いい夫婦かん知れんち 娘も悪
い気はせんじゃつた。親がふうゆうしちよりゃ 何かん時でん相談
もしいが そげん事を思うとな今ん幸せは 親譲りかとな納得する
娘。そき一饅頭が運ばれち来た。

店のちいさんも心得たもん。『勘定は親が払うんじゃろう まさ
か娘に払わするなんか ねえわなえ』『そうそう』 娘がすかさず
口っさいでーた。『りゃー俺がや ほんなツケど それでんいいか
のー』『いいわな 利子が高えけんどの』『……………』『うそうそ
心配せんでん あるとき払いん催促なし ならいいじゃろう』

『あんたどう仲がいいなあ 本当ん親娘な あやしいな一』 店の親父が冷やかすと 娘はムキになるかち思うたら なんのその。『恋人んごつ見ゆる』『こりゃ 何うゆうか つまらん事う言うと本当かち思われるど 恥ずかしいじゃね一か』『ちゃー 顔が赤うなっち』『親父う冷やかすもんがあるか ふんと』

店先ゃ思わぬ話題になっち 賑やこうなった。『元気のいいなあ いい事ど 病気せんごつせにゃのう』『嬉しい 心配しちくるるな オトツタンだけじゃき 人ん事より自分のこつ一気をつけな一え もう幾つになつたんかな』『親ん年も忘れたんか 困つたコンニャクじゃの一 え一と80になつたど。こん頃あ歯も悪うなっち目もの一』『そりゃ困つたな 歯かる目 それかる何かな一』

悪い娘じゃふんと 親を冷やかしよる。それをちゃんと解ちよち合わす。それから何ち言うか ただごとじゃね一……聞きてえち 皆んなが側耳う立てた。『あんの一』 そこまで言うて耳元じ小声じそつと………娘は吃驚たまがったように 『何え歯、目、頭がボケたんな』『銭がの一なつた、俺はま一食うちょらんど』

店の親父も転げまわらんばっかし 笑いふ一げた。笑うな一いい事『福が舞い込むごたる』 なにんかにん喜くうじ 『今日ん饅頭はオゴリにさせちよくれな』『何え それじ儲けはとげすんの』『もう今ん福笑いじ儲けたも一緒で』『そりゃ悪い お前ゃ早う何か出さんか なからにゃあれでん出せ』『あれえ……』 店の親父は又生唾うひんのんだ。

いつもまさかの時に間に合うごつ 教えられち持ちよるキズ薬を差し出えた。『役立つ事もあるじゃろうき使って』 心くばりはまさに 『情けは人の為ならず回り回って自分に帰る』『おおきに おおきに 大事に使えき又寄ちよくれな いつでん』 その一言は物や金じゃ買えん宝物でんある。

『ところじ匂やん 物知りじゃが藁た一どげーいいもんなえ』
店屋の親父が暇つぶしいとりあいであつた。

匂やんな物知りぐれーか 知恵者でんあり人気がいいにもっちき
ち いつも控え目じ優しいき 好かるる。若え頃あ相当娘たちゅー
泣かせたんじゃあるめーか。ち 人は言うけんど それが又真面目
じ『ありゃー出来るんじゃろうか 色気はあるんじゃろーか』ち
人ん口にゃ戸もたてられん。そげな心配話もあつたぐれー。

『藁え…』ち 一息入れち 『ほんな話そう あんたしょわーね
ーんな 商いをほたつちよつちいいんな』『もうでーぶん儲けたき
店じまいしゅうち 思いよる』 呑気な親父じゃが それが又商売
の奥の手かん知れん。ガサガサ儲けんじょう追いまくってん 儲け
は反対に逃げ出すもの。

話のはじまつた…『そうじゃなー』ち 話を切り出すとそん
展開もなかなかんもんじゃつた。

稲刈りしたら藁が出来る…そん藁は 牛馬ん餌になる。その外に
藁細工ん材料…縄、むしろ、かます、畳、牛の靴、鍋敷、鏝ん叩き
に使う 藁小屋の屋根、藁囲い、俵、敷き藁、草履、引き縄、箒、
こげなんは人間が手をかけち 生かした使い方じゃなー。藁ぶとん
にしたり小屋の敷き藁、藁灰つくり。

そうじゃ灰にすりゃ灰汁にしち 洗たくに使う。灰汁染め、酒の
味だし、草木染め、木炭づくりのかけ灰、野菜作りの肥料なんか。

まあ使い用によつちゃどんぐれー多いか そかー店屋じゃきゆう
知つちよろう 皆まじ言わせんなな恥じうかくき
頭うかくなー得意じゃきいつでんかくがな。匂や
んさすが旨く逃げたあたり大したもんじゃつた。



朝草切りには夢があり花が咲く

若けえしが夜なべ仕事してん朝間仕事は ちゃんとする若者らしい行動は田舎じゃ 将来が楽しみに夢う結ぶごたる。苦勞に甘えてん何かやんがちいい事があるような そげな感觸があるもんじゃき頑張る ひずがらんじハリコム。若さもあるじゃろうが それ以前の執念ち言うかプライドち言うか 頼もしい限りでんある。

牛馬んハミ〈飼料〉にゃ草は欠かせん…それが飼料になっち糞が田畑ん肥料になる。土が肥ゆると米も麦も野菜もゆう出来る。そりゅう売っち百姓は〈いのちき〉生活うする。牛馬をムドガリ家族んごつゆう見る。時たま大豆粕も食わすると飛び上がっち 喜ぶ気持ちもゆう解る。葬式にゃ米飯が食わるるち喜ぶ気持ちとて同じ。

辻ん旗立て場にシラミかかった頃じゃ 牛馬を引いち若いしが集まるな…草切りん朝間仕事。ゆうべ遅うまじした仕事んダリが抜けんうち 起くるともう顔もそっこ洗うと 昨日んヒヤキう囓む囓む牛う引いち集まる。大けな欠伸ゅしたんな大方解っちよる。いつも決まったごつこれが人間の 調子んいい証拠じゃろう。

『お前ちっと顔が赤えどしょわねーんか』 心配しち尋ぬるんもいい仲じゃきじゃろう。『せわねーき おおきに』 素直に礼を言うと手鼻のーこうだ。娘たちやっば年頃じゃ ちょこっと紅うせえち白い手拭いがゆう似合うなんの。笑顔じ見回えち誰からとんの一草場に 歩き出すと決まったごつ牛が馬が周りん草を 口うさいでーちゃ引きむしっち食う。

朝露がちっと歩くと足もつーびっしょり濡らし 肌まじ染み入るごたるがこれも青春の味。若い者にゃコンコロモチガイイ。話がちっと途切れたらトツパ話が始まった。灰汁のね一人んこちい立ち入らん話 これがお互いん気持ちゅ大事しちよる。



いろいろ話したり笑うたりしよるうち 草きり場にちいた共有地にゃ柔らけ一草が瑞々しゅう生えちよる。『怪我うせんごつしゅうやのう』『そんな通りど 怪我しちなんぼじゃね一きの』お互いに気をつけおうち朝露ん中えもぐり込む。ちゅうてん中に隠るる訳じやね一けんど 背の丈けはずもありゃ隠れてん解らんはず。

研鎌ん音が辺りの静かさん中じ さっざくっさっざくっ 心地いい音に暫くは話し声も途絶えてしまう。頭からしっぽり濡れた姿体には 内からは汗が肌を伝わり そとかるは露が心まじ清めちくるるごたる。草きりん音が近づいた時じゃつた…『あいた一』だまし鈍い声がしたかち思うたら 隣で切りよった幸子がどうやら 蜂にさされたらしい様子。

大きな声を出しゃ皆がすぐ飛んじ来る そりゅう思うと迷惑かけたりもするし だらしがね一ち思われたりもする。そりーギユウラシイじゃ甘え過ぐる。ソレヤラコレヤラを考えよると 大きな声も出せんもんじゃき 一声言うるとそきーシャガミクージしもうた。蜂は逃げたが側に巣でんありゃ大事。

ジット見計らうち蜂ん巣はね一ぬ確かめち 腰ん葉う取りで一た時隣じ切りよった 一男がタマガッチ側に寄っち来た。『蜂刺されたんか しょわね一か』心配顔じ来ると刺された所う確かめた。又それがちようず脇ん下じ本人にゃ見にき一場所。『ドウこんげ向いちみな一』一男が手っ取り早う葉う塗らにゃ 腫ルルかん知れんち思うと恥ずかしがるぬ一 脇ん袖をはぐりあげた。

まっ白い肌がむき出しになっち刺された所が はっきり見ゆるごつ赤うなच्चよる。『ここじゃの一見よ 見れんの一よし葉うやっちみよ俺がつけちやる』手際ゅう塗り込むと痛みがあるんか顔うしがめ それでん安心したごつほっとしちよる。塗った葉が効くと赤みも引くじやろうが あん膨らみまじ行かんじフガヨカッタ』。

蜂はどうやら一匹狼じゃつたんか 後は寄りつきもせんきほっとした安堵感と 手当てしちもろうた優しい男ん匂いが 幸子ん母性本能をくすぐちしもうた。おまけに白い肌もむき出しにされ その目の前には娘の印の乳首も チラリ眺められる場所に蜂が刺す。巡り合わせと言うのか宿命であるのか。

赤く腫れた刺し後には薬で毒消を済ませ しかし娘ん心に残った優しい傷口も灰かに口を開けちいくごたる。「いっときじっとしちよち方がいいごたるけんど」「そうか ほんなちよいとヨコウチョリャゆうなるのー」「……」「どげーしたんか しょわねーか」「おおきに 側にいっときおって……」心配になった一男。

皆知らん場所じ二人じしゃがみくーじ 見られたら蜂に刺されたや…そりゃ本当か…信用はするじゃろうが なんか芝居じみた感覚に迷い込む一男。「解っちよる 心配すんな 一時じっとしちよリャウズキが止まるわい」みんな遠い所んごたるき なんぼか安心した。「おおきに」 改めち顔見つめられち言われる一男。

「ばぐったままじゃ寒かろう」 一男は白い肌がむき出しん脇ん袖口を 引き上げち被しゅうちしたら それがかえっち悪かった。さっき無理に引き上げたもんじゃきホコロビなっち こんだ又引きよせたら ぱくっと開いてしもうた。「ありゃーしもうた 寒うなりゃせんか 露に濡れちしもうちのー」「いいんで しょわねーき心配せんでんいき」 二人とも意識的に小声になちよつた。

「も 一べん塗ってくれん がいと」「そうか も一回塗っちよこうかのー」 二人のやりとりには もう傷の薬もあつたが何か見せたい 見たい思いが微かに燃えたちよるような。「ありゃ見えたど」「何が うっとう見えんが」 幸子の度胸は信頼と安心がそうさせているのだろう。「そうじゃろうのー これじゃこそ」 男ん手がしっかり握りしめち 愛撫しちくるる草むらん露ん花園。

『もうどげーか 出来たか加勢しゅうか』 そんな声はでーぶん離れち聞こゆるんな 気を利かせち側にオランじゃつたんかしれん。『ちやーもういぬるんじゃろうか』『しよわねー心配せんでん荷を作りよするき』 頼もしい一男ん声に嬉しい感動が全身を流るる。忙しゅうあたりん草おなぎ倒すと ばたばた束ねちゃおおかた上荷まじ なんとか出来あがった。

男ん逞しい働く姿に蜂に刺された痛みも たった今まじ流れた女ん悦びん情愛も 暫くお休みにせにゃならん悔しさ。でんそれによって二人だけん夢が暖かっ包まれる 朝間仕事ん草きりん中じ釀しでーた 仄かん世界が娘心を満足させる束の間。脳裏に焼きちーた現実んプログラムが 写し絵んごつ滲んじ消えた。

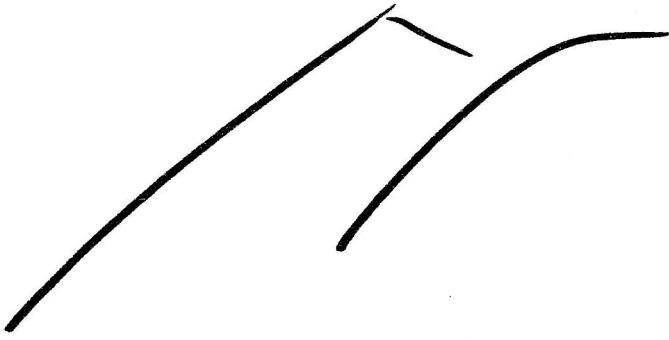
『やんがんな今朝は上荷がだまーねーど』『そげんこたーねーどが』『てーげ上手にくびるに どげしたんか…そりー幸子のんそげえありゃせん』 日頃たー変わった格好は誤魔化し出来んごたる。それでん若い者ん話はすぐ消え帰り道じゃ 別の話がまた賑やこうもりあがっち 上荷で揺るる野花がいじらしい。

幸子は牛を引いち歩きながら 刺された痛さをじっと撫ずりゃそばん ホコロンダ袖口かる冷てえ風が露ん滴まじ 連れち入っちくるごたる。胸の膨らみが妙に騒ぐような ズキンとするごたる感触に嬉しさ 悦び 夢なんかが交差しち 朝草切りが無事に終わった巡り合わせか 蜂が誘っちくれた人の不思議な出会いは これからん人生にも おおけな役割を果たしちくるるんじゃなからうか。

見ちよつたえ、ほんな黙っちよつてな。折角見せちくれた夢じゃき いつまでん消しとうはねーき。これが人生でんあり生きちよる証でんあろうき。濡れた着物の中かる覗く白い肌にゃ ほんのり模様が残る。



五
心
一
服



ここじチョイト一服するかなー あんまり続けち読むと目がダルキ ちょいと遠い所う一時見てな。疲れがたまってん悪いき方言ぬ読むきーち 言われると尚更すまんことじゃき。

◎◎◎ 『ちょいといっぶく』 ◎◎◎

去年〈平成16年7月24日〉 野津原町じ『ラジオ体操』が全国に放送されち町民なんか だいたい1200人ぐれー参加したんで。でこん体操じゃが始めたんな 昭和5年〈1930〉にそんな頃ん 簡易保険と日本放送協会が共同じ 健康増進の目的じはじめたんで。

あれかる今年しゃ77年目〈2005〉になる。始めに出来た第1ラジオ体操…普通ん体力づくりん目的。続いち第2体操が…ちっとう高度ん体力づくり。そしち1999年に出来た『みんなの体操』は…ソフトじ誰でん出来る優しい体操。体操じ体を大きく高く使い 工夫によっち健康推進ぬはかるんが狙い。

春の花を代表する桜 中でん『染井吉野』は全国に咲くけんどほんな なしそげな名前がちーたんか。江戸時代今ん東京ん染井地区じ 吉野桜ん苗を売っちょつたんが そもそもんはじまりじ染井吉野ち ちーたんとこれ本当で。ひょかつとした場所ん名前んちーた例は ほけーにもいっばいあるごたるなえ。

物にゃ旬ちゅうもんがある。人間も年頃いなりゃまこち美しゅうなっちなえ。そりー好いたしならもう『アバタモエクボ』ち言うごたる。ちっと並べさげーちみろうかな。

野菜…ハクサイ…12月。サトイモ…10月。ラッキョウ…7月。エンドウ…5月。カラシナ…3月。

貝……ほたて貝…9月。ジジミ…8月。さざえ…3月。かき…1月。まこ貝…5月。

魚…タイ…5、6月。イワシ…9、10月。ブリ…12、1月。
サヨリ…2、3月。キス…8、9月。

果物…イチジク…9月。ザボン…12月。モモ…7月。アンズ…
6月。ネーブル…5月。

花…モクレン…5月。ザクロ…6月。サルスベリ…8月。ツバ
キ…3月。サザンカ…1月。

★ 季節の花 キク…10=12月。ケイト…8=9月。ナデシコ
…5=6月。ホーセンカ…6=8月。ヒヤシンス…3=4月。

★ 行事と食べ物 亥の子餅…11月。七草粥…1月。クリメシ…
9月。草餅…3月。ちまき…5月。

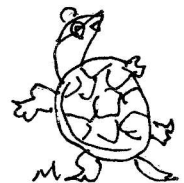
★ 飲み物温度 コーヒー…65度。スープ…70度。ビール…
12度。ブドー酒…15度。日本酒あつかん…50度。

★ 飲み物主産地 コーヒー…ブラジル。紅茶…セイロン。ウーロ
ン茶…中国。ブドー酒…フランス。ウイスキー…イギリス。

★ 適温 パン…30度。コージ…70度。甘酒…60度。もやし
…20度。納豆…38度。

★ 水分 大根…94、5。白米飯…64、2。鰹節…14、3。
食パン…37、7。牛乳…87、3。

こん表は昭和25年から30年(1950=1955)頃ん
一般の好みや見方、季節の旬、行事と習わしなんかじ 今ん
一般論たーちと違うかんしれん。けんどこげな時代もあつた
ち 想像しち見るんも意義があるんじゃなからうか。
進歩する世の中じ古い習慣が生き抜くのん 考えちみ
りゃ何か微笑ましいこたるなえ そげーねーかなあ。



ほんなもちっと続けちいこうか なんさま50年も前ん頃ん事じやきな一見当ちがいん数字もあるかん知れんき そか一步を入れちユウジョクレナ。

★ 甘さくらべ…サッカリン…450倍。ブドー糖…0,55倍。
ズルチン…200倍。果糖…1,25倍。乳糖…0,27倍。

★ 火力くらべ…木炭…820度。電気コンロ…1100度。ガス…1500度。石炭…1100度。薪…600度。

★ 目方〈一合〉塩…100G。白米…140G。牛乳…180G。
。きな粉…70G。しょうゆ…200G。

★ 匙一杯の重さ 味噌…15G。しょうゆ、塩、酢…12G。
小麦粉…6G。白砂糖、油…10G。

★ 一合の重さ 清酒…180G。食用油…160G。
小麦粉…90G。押し麦…100G。豆〈大〉…140G。

★ 数の呼び方 鏡…一面。蚊帳…一張。菓子…一折。カツオ節…一連。御輿…一基。

何様で一ぶん古い時代の数じゃき 今た一違う事もあるろうし又知らんじゃつた事もあるじゃろう。使わんでん知っちょりゃ話ん種にもなります。

幕の内弁当…昔ん芝居の幕あいに出た弁当が こげな呼び名になったそうな。駅じ売りよる汽車弁当〈幕の内弁当〉にゃ 必ず卵焼き、梅干し、かまぼこ、が揃つちよらんと幕の内弁当た一言わんそうな。そげ一しち見りゃ昔んしは義理固えな一ふんと。

五助

高野反詰
高野反詰



五助さんが夜道う帰り荷を積んじ えーと人家んある村まじさしかかった。馬が何う見たんか立ち止まった。『どげしたん』 優しい五助さん ひょいを見ると夜目にも見ゆる 家ん風呂場ん横しじ一人りゃ帯う解きよる…一人りゃ禪う外しよる。ありゃまあ…これじ馬が止まったんか…湯にども入るんじゃろう。

『待てよ』 湯に入るんなら何も遠慮はいらんはず 五助さんも色気はまーあるもんじゃき 目を据えち見つめちよると…ありゃ…抱きおうち どっちも承知ん上じゃろうがまあ。それにしてん立つたまたまーあんまり色気がなえ。やんがち側ん縁台に倒れくーだ。もんじゃき そんな先は見えんごつなつた。

生唾おひん飲むと『こりゃ帰るど』 いかにも馬が止まったんが悪いごつ いんにゃ決まりが悪かったんじゃろう五助さんも。

歩きながらあれこれ頭え想像しち見りゃ 若え時ん思い出もねえこたーねえ五助さん。ひょかっと思いでーた事がある。荷物う頼まれち運びくーだら 『奥まじ入れてくれんな』ち 言われたもんじゃき『いいで』ち 気軽に受けのうち草鞋う脱ぐと上がった。ところがそきーにゃ酒肴ん接待ん準備がしちある。

『ありゃこりゃまあ どげしゅう』 五助さんもちょいと慌てち二の足う踏みしめた。ち言うてん頼まれたぬーするんが 馬子ん役目じゃき今更断われれん。とにかく運びくうじ『ほんなこれじいいな』ち 草鞋をつっかゆうどちすると 『ちょいと待っちょくれ』声をかけられちトウトウ来たか。



『お口汚しじゃけんど一杯どうな』『えーこりゃー済まんな』 遠慮しち相手に恥をかかするな禁物。『ほんなちょこっとだけな』『無理言うち済まんなえ 無理言いついでにも一つよかろうか』『なんじゃろうか……』

『あんたなら安心しち頼めるるき 昨日かる痒うじ堪えちよつた
けんど もうもてんごつなつたんじ お願いします』『えー困った
なァ それじわしに出来る事じゃろうか』 五助もいよいよとなり
ゃ根が律儀者じゃき 度胸が半減しちしまふ。『出来るぐれ一か五
助さんじゃき 頼めるるんで』 そこまじ言わるりゃもう後にゃ引
けんごつなつた。覚悟きめた もう矢でん鉄砲でん持ってこい。

『背中が痒うじもうたまらんき』『えー』拍子抜けした五助さん
じゃつたが 『待て待てここらが油断と度胸ん境目』 ち次ん言葉
を待ち構えた。『よっぽず悪いけんど 手じいいき指しくうじ搔い
ちくれんな』 がっかりしたような心境じゃが 言われち見りゃそ
れが確かん事じゃろう。

『あーそうな 何事かち思うた』『何ち思うたんな』『いんにゃ
何でんねー』 俺は又 こりゅう入れちくりーち言うんかち思うた
……小声でぶずぶず言うんが よっぽず可笑しかったんか 『本当
はなァそれじゃつたんで そじゃけんど 始めかるそげ一言うと
断わらるるきちちと遠慮した』

がっかりしたような熱ん出るようなやりとり。五助さんも『ま
まよどうでもなれ』ち 覚悟きめちしもうた。そうすりゃ気も楽にな
って 希望とおり背中にぎゅうーと 手を差し込むと柔らかえ肌を
あっちこっち 掻き回したらそれが快感になっち 悶え始めち来る
んが指先い伝わる。『も ちと右に動かして そこん所かる左』

『気持ちがゆうなつたき こんだ前をちと搔いちくれん』『前
は手が届くんじゃねー』『でん五助さんの手がとてんいい接配じ』
五助もまんだら悪い気もせんじゃつた。これから罪もねーじゃろう
が ちった満足せんかん知れんが。うつろな目がじっと見上げち
なんか次の一手を求めちよるごたるが。人間の本質が
妙に悶え心も思いも 宙に浮いているごたる奥座敷。



五助さんもここまじ言われる果報者。『おーきに』甘えるでんねえー小戸妙に 心うくすぐち後味ん悪い事。『よかったじゃろうな一痒いな一堪えられんきなえ』 着物ん前を繕うと跪いて丁寧に頭をさげた。ちっどほつれ髪ん端が風に靡くと さっきまでん悶えに余韻が惜しまれち 流し目が五助ん心うくすぐる。

『ゆっくりしていったらどげーな』『こいさ泊まってんいいかえ』 冗談めいち五助が囁くと 真面目な顔になった口もとかる不思議そうな いじらしい声で『本当 嬉しいそれ待っちょつたんじゃけん』 そこまで言うて頬を赤く染め恥じらい姿が まるで嫁に輿入れしたような初々しい横顔。

冗談のつもりがいつんなかめーか 燃え上がる炎に変貌したもんじゃき 『もいっぺん背中搔いて欲しくなった』『いいでそれぐれーお安いご用じゃき』 五助も開き直ち手を指し出すと ぐっど姿体を引き寄せち白い肌が紅潮した 背中に差し込んじしもった。温もりが脈うち激しい鼓動が伝わち 二人が夢の世界に誘われちいく。

『ここにツーが出来ちよるで あんまり掻きむしったき見なそう痛うはねーな』『いんげ コンコロもちがいいで』 ちった嘘も混ぜち返事するもんじゃき 五助さんも嬉しいぬー隠し切れん。『やっぱ肌ん温もりゃいいもんじゃなー』『まあ 上手言うち なし肝心な所にゃ手出しせん』『……』 返事に困った五助さん。

『あんな そりゃ簡単な事じゃけん』 それじゃこん次ん荷物あ のうなる 顔も合わせられんかん知れん。それが人間じゃあるめえか』『……』 嬉しい辛い時間が過ぎち行くが これから甘えられるぬー思えば 五助さんの言葉は身に染みち有難い言葉。仇が出来たら悔いがいつまでん残る そげな人生にゃしとうねえ 優しい心くばりでんあったのか。余韻嬉しくも。



★ 『火慰斗』…ヒノシ…戦後まじ活躍しちよつた洗たく用品の一つじ 当時としては重要な役割う果たしちよつた。5世紀頃に入ったと言われる…聖徳太子時代以前に既に入ったこち一なる。

★ 『ワイシャツ』…本当は『ホワイトシャツ』ん ホ、ト、を略しち…ワイシャツ ち呼ぶようになったそうなる。

★ 『ごみを食べる鳥』…えーそげん鳥がおったかな 世界は広いきどっかにゃ おるんじゃねえ。『解った』ち手をあげたしもえ 耳もとじ 教えちくれた……『チリトリ』と。

ほんな『お茶』は いつ頃入っち来たんじゃろ一か。1899年までは 病気なんかは『薬草』じ 治療しちよつた。き お茶もそん薬草じ入っち来た仲間。★ 植物性カルシウム 不足を補う為いお茶を利用したち言う。

五助さんもて一げん事あ知っちよるが たまにゃ知らん事もあるき 真剣に聞いちよつた。やっぱ人間な生きちよる間はめ一にちが勉強 勉強じゃのう。知らん事あ聞くな一恥じじゃね一 知ったふりする方がよっぽず恥ずかしいこつじゃ。方言でん日本全国各地じ無茶苦茶に多いが 独特ん生活用語も大事に使い守っちよる。その中に『ジャン』ちゅう『ジャ』があった。

□ 静岡、山梨 そしち長崎、佐賀、そり一大分にもあつち。大分ん場合は ジャキ、ジャケン、ジャロー、ジャチ、ジャア一、ジャケンド、ジャツタラ、ジャニー、ジャネ、ジャブ、ジャメ一、ジャモ一、ジャレ などち続いた。

ほんなそんな意味が解ったじゃろうか 熱心な愛読者ん皆さんはもう 全問正解でしょう。地域によつち多少ニァンスが違ふかも でも意味は思いはほぼ同じと思います。一息いれて読んじょくれ。

ジャキ…ですから、そう思うから。ジャケン…少し心荒れるような ですから、そうじゃないですか、そう思います。ジャロー……相手に同調を促す でしょうが、そう思いますよ、そう思わない。

ジャチ…そんなに聞いた思ったから ですから、そんなふう
に、そう思うけれど。ジャア…これは又意外な そうですよ、それが本当かな、これは困った問題。ジャケンド…それとは そう言うけれど、それよりも、そうは思わないが 違うのではない、他に
あるのでは。

ジャツタラ…それならば もしそうでしたら、それも一理あるが
なでこんなに、こんな考え方も。ジャニー…そのはずなのに まさ
か違うとは、それならどんな事が、ですけれども。

ジャネ…ないですよ、そんなはずは、ないと思います、まさか信
じられない。ジャブ…みずをかけて、いたずら盛りの遊びの水。ジ
ャメ…邪魔に、のけて欲しいが、恋敵の存在、妨げになって。

ジャモー…本当に困るから、邪魔されて困った存在、相手を困ら
せる態度、それならいいでしょう。ジャレ…甘えてすりよる。機嫌
とりの態度、傍迷惑な話だが。

言い回しや上、下、に連なる言葉によって 意味も変わり受け止
め方も微妙に変わる。それだけ方言も使い方が多種多様で 暖かい
言葉に近づけて人の優しさを 表現させて生活文化を大切にした。
だから方言が他所の地域で使われても 意味がはつきり解らなくて
も 話を側で聞いていると顔がいつの間にか 笑顔に変わるのも又
不思議な心が 宿った方言かも知れない。

こげんふうにしち方言な
多くん人たちに愛され 使われたんじゃろう。口荒えごた
る方言でんそん影じ しんみりとさせらるる事もあるき。



鳥は飛んでいくんで

『よーい ガラメをよきー隠しちよるき 取りいこーや』 がき大将がみんなを呼び集めち 小声じ話よるぬ 側じ聞いちょつた これ又ちっと オタカラが『しめた』ち手を打った。みんなんこんうち行かにか聞いたんが 何にもならん。慌てまくちつーじ行つたなよかつたけんど それらしい鳥はどきーもおらん。

『おかしいのー ここへんに鳥がおつたち言よつたに』 側を見回えたが鳥どころかスズメも おりゃせん。そんはずじゃこと。鳥でん用事もあるうし いつまでんヒトツトコリおってん 仕方しゅもねー。話う聞いち慌てち知りぶつたんが そもそもん間違い。鳥がおらんごつなつたき 場所どころかそんへんにか そげな格好も見当たらん。

そうこうしよつたら がき大将がみんなを引き連れち来た。鳥ん留まच्चよつた枝ん下を 掘りくりさげーち見つけたガラメ。鳥ん留まった枝を覚えच्चよつたきよかつたもん の オタカラんごつ姿だけ見ち覚えたんなら どうしゅうもねーこちーなつたもん。トギからーはクルワルルは ハダケだれてんしょうがねーこちー。

掘りあげたガラメを みんなじ分けち食いはじむると それが又ドンコンネーうめーもんじゃき 口んはとー紫い汚しち 食い散らけーちもうどんこんなりゃせん。でん がき大将ん才覚はてーしたもん 一人占めせんじちゃんと みんなじ食うところなんか さすが悪でん大将にしちよくんがいい。

子供たちはこげーしち覚えたり 食い物の味も感触し 人ん心ん中まじ許し合える絆も育つ。まさかん時にゃ助けあい心配しあうんも 人間教育ん子供ん世界の場所であらう。笑いながら帰る子供たちは幸せそのものん世界。

五助さんがん話しゃなかなか留まらん。じゃけんど若いしも生唾ひんぬーじ聞きよる。そこら近所にあつた漬け物皿う 引き寄するとナスびん浅漬うヒョウトつもうだ。そんまま口い持ちちいくんかち思うたら 隣にすわっちょつた子供いやる。たまがった子供が目を見りゃ好かんのか 『いらん』ち言わんばかっし。

『ほんなさせな一』ち言う話があつた。思わん襲う乗り出えたしが 『俺も見たに』ち言わんばかりに 後ろ向いたもんじゃき座が揺れたごたる。知っちょつてん聞きゃいいにち じゃが知つた話は面白うねーのんゆう解る。五助さんな空とぼけたごつ『違うた』ちニヤッと笑うあたりゃやっぱ 話上手かのう。

どうしてんいっぺんしちみてー……話したら今日なら丁度いいでち 二つ返事ん受けないが下つた。『よかつたわい』 もう他ん仕事はほたっちょいち そき側え行くと最中ち言うと大げさか。『あんな指先じせりくーじ ぐっと差し込みな一え』『……』 嬉しいもんじゃきもう真剣 返事も出らんごたる。

『ぐわーゆー入つたんならぐるりゅー寄せち ちっと押さえち』『初めちじゃき難しいのー』『あんまりひずーすりゃ痛えがえ』『こげーか』『そうそう けっくしゃ上手じゃな一 そげーうめかんでんいいき』『あーよかつたのー はじめちしちやいいじゃろうが』『まあまあじゃな一ちっと腰う使うともっと いいんじゃが』

『そんふっくらした所う押さえ過ぐりゃ悪いで』『ここか難しい所じゃの』『指ん感じがなんとん言えんじゃろー』『も いっぺんしてんいいか』『あんたも好きじゃな一 よかりゃすりゃいい』『こんだ調子ゆう出来たど 穴掘りもうまいじゃろうが』『もっと上手なしもおるで』『何や やんな他んしにもさせたんか』

苗の植え付けは半作ちも言うかる 植えつけこす大切。



方言學
研究
卷之六
女子學

女子學
研究
卷之六
方言學

ま マアユウテンシランフリ……甘えても知らない、頼り癖は悪い
マイアガルトソンスル……おだてに乗ると損する、調子に乗るな
マイッタチナ……亡くなったそうで、成仏したとか、降参した
マウコターネーデ……舞わなくても大丈夫、回らなくてもよい
マエクチャイワニャ……前もって言わないと、予告してあれば
マカラニャカワンキ…安くしないなら買わない、値引きなら買う
マカルンナラカウデ……負けてくれるなら買う、安くすれば購入
マキートンイエ……安くしなさいと交渉、値引きさせて買う知恵
マクレ Chol キ……そりくり返っているいるから、変形している
マケテンナクコタナラン………負けるが勝ちと言うから
マコートンユルウタカ…巻きついても知らぬふり、撒いてもよい
マサユミーナツタ………夢が本当になって、夢見がよかった朝
マシウニャモウケ………余分な敵は儲けもの、思わぬ収穫
マズルカマメランカ……交わるかそれとも駄目か、手におえない
マセテンエエラシイ…早生育ちだが可愛い、大人びても憎めない
マゾチョコケヤ……ちゃんと元の通りにしなさい、返しておくこと
マダランカンシレン………仲間入りは無理かも、交わり難い性格
マタクレヒガイルド………大変だ宝物が盗難に、油断禁物です
マタクラカゼモスズシイ……股に毛が少なく涼しい、下着を忘れ
マタソゲンコツ………またそんな事を言う、繰り言を言われて
マツタンカセンギシチ………待っていたの捜して申しわけない
マツチャレムゲネーコサレ………待ってあげたら可哀相だから
マツッタヨカローキ…も少しぐらいはよいでしょう、何かの役に
マヂランゴタルド………人にまみれない性格、仲間に入りにくい人
マテーゴタッテンミンナ………優しいようでも後が怖いよ
マドイモウサンヌ………返し切れないほどだから勘弁して
マドワンナライイド………戻さないなら考えが、信用を失うが
マドチクレタント………戻してくれたのですか、元に戻した
マドロシュデンマテ………いらいらするけれど我慢して
マトーヒラキヤミユリヤセンカ……股から見えた宝物、観音菩薩
マトーミリヤマタホユルノー…股をみたら勃起して、若さが出る

ま マニオータンカ……………時間に関にあいましたか、滑りこみで
マヌケントンチン……………間が抜けてとんまな、調子はずれ
マネナンナチュウ……………まねてはいけません、人のふりを見習うの
マビクノンカンガイ……………折角の苗が惜しいが成長には犠牲も
マビキャーフトルド……………適当な間引きは丈夫な苗になる
マバタキャイロケ……………ういんくしたのかな、目で合図する技法
マブリオトサレチ……………瞬きもせず見つめられて、凝視され落とす
マブラルリャノヤ……………見つめられると根負けする
ママタベチュウニ……………ご飯を食べている時に、食事時に
ママコナカスンナ……………腹違いの子を泣かせると誤解される
マメランゴツージ……………みんなにの仲間入りが困難
マメトリアブネ……………女性の誘惑は危険、セクハラは駄目よ
マメナタッシャナ……………元気ですごしているか、健康ですか
マメシダングクエ……………餡こをまめしたダンゴ食べませんか
マメナカエコングラ……………元気ですかこの頃は、健康で過ごしてす
マメーシテンコマル……………気ままにさせると癖になる、放任は困る
マモヨビナー……………ご飯を食べさせて、食事をご馳走してください
マモリャショワネ……………守っていれば大丈夫、守護は任せて
マヤンツシノボレ……………馬屋、牛舎、小屋の二階に上がる
マヤンコユダセ……………馬屋牛舎の肥やし出し、馬屋の片づけ
マユカクリャアガリド……………繭をかけ始めたら終わりに、蚕の上がり
マヨタンカンシレン……………迷ってしまったのか、考えが浮かばぬ
マヨータツルキ……………馬屋、牛舎などを立てる、作業小屋を建てる
マラニャナオセ……………用足ししないなら隠しなさい
マランサキュミヨ……………みみずにかけるな、男性性器の先を見なさい
マラレニャコマロウ……………用足しできず苦勞する、尿が詰まる、便秘
マリカブルキヒトメン……………そこらにひりさがす、不調法な仕種で
マリタガルニコマル……………用足ししたがるので困る、所構わずに
マリクージョケ……………そこに用足しすれば、気つかれぬように
マルンママタケ……………丸の儘炊いたら、そのまま燃やしたら
マルゴタラコキキー……………用足しならこちらに、トイレはここにある

- ま マルタモエオーケアル……………割ってない薪が燃え得する
マワツチョルンカ……………回っていますか、廻って来るのですか
マワツタゴタルキ……………廻ったようだから。回転している
マワツチョルド……………回っています、回り道したようで
マワラニャオコルド……………回らないと腹を立てる、回転が失敗した
- み ミーテンシテンバグル……………見ても見らなくてもはぐりたがる
ミータゴタルキデレ……………向いたようだから出なさい、感心がない
ミーチョキヤドゲカナル……………剥いておけば役立つ、準備すれば
ミーテントリアウナ……………向いても関わり合わない、相手にしない
ミガイテンシレチョリヤ……………生まれつきの姿は変わらない
ミガカニャワリード……………手入れが光るもの、愛情こそ大切
ミカケニャヨランド……………予想以上に、価値観は見かけだけでは
ミケンニシオヨシィ……………形相が心まで表す、損をする表情
ミコミヤコスイイツケタ……………信頼すれば子守を頼める
ミシケテンサガシモウサン……………見つけたが解らずに、発見出来ず
ミシクリヤセンジョツチ……………捜さなくて言い訳ばかり
ミシカカリヤツナゲ……………短いのは繋いで使う、物は使いようで
ミシケートトワンニ……………短いから届かない、頭の使いようで
ミゼニユキリヤイイ……………たまには接待せねば、人には大事な心を
ミズハズセクユルド……………水を放水せねば壊れる危険
ミソダルンツラアライ……………拵え晴する姿、たまさか外出の厚化粧
ミタシャヨダレデル……………見た時の歓喜は上機嫌、又と無い秘仏
ミタンナラユウナルデ……………診たんなら大丈夫、調子の診断で安心
ミダタマツチフウイイ……………水が満水で安心、願い叶って幸せ人生
ミタヌシタモンノヤ……………あれなら経験済み、言われぬ悦び
ミチュツケチャル……………話をまとめてあげる、仲介をする人
ミチバテヘコタレチ……………疲れ果てて道端にうづくまる、疲労困ぱい
ミツグオモドスデ……………畑起こし農具を返す、借り物は確実に返す
ミテクリヤワルデン……………みかけによらぬ宝物、人は見ただけでは
ミテンヘルモンジャネ……………見せたら格別な場所、見たがる所

み ミテンシランフリシヨル……見しらぬ振りする利口者
 ミナナロード……皆んな並んで、行儀よく並びました
 ミナカテフレタカ……みんなに周知しましたか、連絡したか
 ミミカンジョウ……耳の都合で計算する欲得性格、都合よい計算
 ミミカルサキデケタ……耳さとい性格、何でもよく知っている
 ミムカンハナツマミ……見向きもしない嫌われ者、嫌われ人間
 ミノツクゴタルヒヤイ……身が裂かれるような高い利息
 ミノナラアルキ……衰ならありますよ、用意してある心構え
 ミマイガテラタンニュー……見舞いを兼ねて訪ねる、序で見舞い
 ミミントイカンジョモモン……耳の聞こえぬふり上手、勘定いい耳
 ミムカンナスキジャ……恥ずかしがり、見向かないとは好きな証拠
 ミモチャイインカ……行いはよいのですか、真面目な性格
 ミモシイラモ……よく入っている物と半減の物、出来不出来
 ミモチャハロサイデエチ……妊娠して大きくなった腹、めでたい証
 ミモウチドゲンフウ……見舞いして経過は、見舞いは情けの贈り物
 ミモタラヨロクウダ……見舞いに行くと喜ぶ、心の見舞いは千金
 ミバユシャントセニャ……身なりをきちんとしなさい
 ミビーキモホズホズニ……身内のほめ方は難しい、手褒め上手
 ミブリユウセニャ……きちんとしていないと、清潔感の服装
 ミブリュハシコマエ……品位は身振りで決まる、きちんとして
 ミボウユウシチケ……きちんと身振りよく、盛装して行きなさい
 ミユータフシギナモン……夫婦とは不思議な縁、他人同士が絆
 ミヨートブゲン……夫婦がなかよく円満、仲のよい夫婦
 ミヨッテンシランフリ……見ても見ぬふり、黙認してこそ意義も
 ミラルリャコマランカ……見られると困るのでは、見られずに幸運
 ミリソコノータ……見ないままに終わった、見えずに残念
 ミランジャツタキ……見えなくて、見らないままに、見えず残念
 ミチョルメノウナツタ……あっと言う間に消える、瞬時に無くなる
 ミロウドチキタニ……見るために来たのに、折角なのに見えず
 ミレンゴツノーナツタ……あっと言う間に無くなる、瞬間に終わる
 ミンノウミラニャ……皆さんをよく見て、顔を見て覚える

む ムイタナハヨクエ……………剥いたから早く食べなさい
 ムイチョキャダレカクウ……………剥いてあれば食べるもの
 ムカンデムケ Chol ……年頃ん男性性器、自然とはよくしたもの
 ムカワリヤスグクル…一周忌は早い、故人の追憶が期間を縮める
 ムカチーチヒトメン……………嘔吐したい心境、意にそぐわないから
 ムキンモンデクニナル……………向かいの家の事でも気になる
 ムクレタナトリアエナ…腹立て者には構うな、交わりのない個性
 ムクナイイガクウカ……………剥いたが食べますか、甘やかしも程々に
 ムゲネーガツミツクル……………可愛いそうは罪作り、甘やかし禁物
 ムゲネーモアザニナル…甘やかして失敗する、苦勞させるがよい
 ムコートンワロートン……………剥いても割っても自由に、気ままに
 ムコバラミュスル……………妻の妊娠に婿が変わる、同情妊娠
 ムコニヤイグレ……………向こうにはよいように、相手には調子よく
 ムギメシャハラガヘル……………麦の入った食事はすぐ空腹に
 ムクンナライマド……………悪餓鬼遊びで体験、影で性器の剥きくらべ
 ムゲネーナイトキ……………可愛いのはほんの一時、すぐ憎たれ口
 ムゴタラシュコナス……………悪質にいじめる、乱暴に痛みつける
 ムスコンアサダチ……………男性性器は朝は元気がいい
 ムスミヤシタガル…娘は相手に思いを交わしたい、愛欲は自然体
 ムセタナキオツキ……………せきこんだら用心を、器官に用心しないと
 ムダアシャナカダチ……………何回も行き来して話もまとまる
 ムダメシデントミナル……………無駄飯も食わせて役に立つ
 ムテーナイイグチ……………無理難題な言いぐさ、暴言をあびせて
 ムドガリヤイモンジャンネー……………甘やかしも程々に
 ムトーナヒアイ……………無理難題な利子の請求、高い利息に悩む
 ムナモツシメニヤ……………胸が見えるから用心を、隙を狙われそう
 ムネマジミセブラケーチ……………肝心な場所をちらつかせるな
 ムノーハグラレヨロコブ……………胸をはぐられて喜ぶ年頃
 ムラハチブデンニブアル……………のけ者でも火事と葬儀は仲間内
 ムリニヒアイモアツ Chol ……無理に言われた利子の請求
 ムリヤリノシーチユウ……………無理やり求められて、強引も考えもの

む ムレタキツクカ……蒸せたからつきましよう、餅つき常備完了
ムレンナフリーノカ…蒸れないのは古い米か、古米は蒸れにくい
ムリュスリャワズラウ…無理したばかりに病気に、何事にも限度
ムリュセンデンシマウ……無理しなくても終わる、企画が大事
ムンムンスンナコマッタ……むしむし湿気に困惑、異常湿度

★ 米う蒸しち餅つきゅ杵音ん響きが なんとん言えんがこりゃ餅米
を使う。正月につく餅は一番多いが お飾りん他にも嫁の里に持参
するんが『鏡餅』。昔しゃお医者さんなんかにも 世話になるき持
参してお礼を言う風習が残ちよる。お宮、お寺、辻の地藏様、井
戸、お墓、人ん優しい感謝ん気持ちは 各所に見られ仄かん暖かさを
醸しだしちよる。

建て前ん『ヒトギモチ』…大事にする人たちは きちんとした着
物を着こみ薄化粧しち行きよった。『火を遠くにする』…火難の習
わしのようにじゃが 古い言葉の『しとぎ』から来ちよるごたる。投
げた餅う拾うな—そん家ん 繁栄を一緒に祝い喜ぶもんでんあり
合わせち幸せも拾う風習でんある。歓声をあげち大けな手を広げ
『そら来たど そっちじゃ』 わあわあ声が広がるんのも 幸せが
舞い込んじくる 愛でたい行事でんある。※ しとぎ…神前に供ゆ
る餅の事。棟梁やら関係んしが屋根かる 餅まきすんな周りん人た
ちまじ 心う豊かにするごたる。

誕生餅…子供にかかるわせたり 餅の上を歩かせたり 関係んしに
配ったりしち みんなじ祝ちもらいて一親ん願い。紅白ん餅を作
ち祝膳に添え 催しん時配るのん いや栄えを念ずればこす。
結婚式に出る…おてつき餅…無事結ばれち一同安心 おてち—たち
吸い物に入ちよる。ほんこんめ—餅じゃが じゃき意義もあり後
ほしい気持ちさするんが 憎らしい心くばり。人間が生まれち来た
巡り合わせに 餅がち—ち来るのん絆じゃろうが そげな人ん心う
温かく包みく—じくるる 餅にゃかぎりね—愛着も感ずる。

餅ん話どげーじゃつたかえ…こげんふうに1つん物にも人間とん関わりが大きいゅう 見らるるんも人間は一人じゃ 生きちよられん証拠でんある。人と人ん支えあいかる物によっち 生かされてんおる現実。じゃき感謝し大事にせにゃならんのじゃが 果たしちどうじゃろうか。

一人じ生まれち来た一人じ育った一人じ偉うなった。そげんこつ思うごたるな心ん狭えしん事。知れちよるんじゃねーかな 人間の力、知恵、能力 じゃきあんまり自惚れてん そりゃむてな事じ話ならん。もちった人に感謝、物に感謝しちこすそんしの 価値観も出ちくるもんじゃち思うが どげじゃろうか。

★ 竹ん皮は夏までにゃ背のびしちくる 皮がそこらじゅうに落つるが 乾燥しち使うと利用価値もけっくしゃ多い。昔しゃ肉、黒砂糖、飴がた、握り飯、餅、魚 なんかを包むにゆう使いよった。殺菌作用もあるそうな じゃき夏に集めち干すと 取引んしが回っち来る。揃えち品ゆうしちよくとけっくしゃ高値。

竹ん皮草履も上品じ履き心地がいい 足ん裏を適当に刺激しちくれ 軽うじ健康ん為にもいいそうな。手芸品、工作品なんかにもゆうしち使うなんか まんだら捨てたもんじゃねえ。小豆を煮る時竹ん皮を入れち煮ると 柔らしゅう早う煮ゆるんと これも昔かるん生活ん知恵。握り飯い味噌漬、梅干しゅちよいと添えち包んだ 弁当なんかもう乾燥し湿気を飛ばすき 最高ん按配になっちくる。

★ 卵焼きなんか昔しゃめったに食えんじゃつた。子供が多いとそりゃもう回っちこんき 卵焼きん時にゃ小麦粉をがいと入れち 練りまわしち焼くと 『誤魔化し卵焼き誕生』になる。見た目にゃ卵焼きじゃき 子供ん数だけ分けち切る弁当に入る。それじもう満足する子沢山の家族 これじ育ち太ったもんじゃが どげーなよかろうかな。



め メーニチクウチョル……毎日食べている、習慣になっている食事
 メイッペヨクシュウ………真剣欲張りの性格、悪趣味
 メエニチハオカム………毎日頑張る、努力家には勝てない
 メオミリャワライヨル………目で相手の考えが推測、失礼な目
 メガデルゴツヒアイ………厳しい利息、高い利息に悩む
 メキキモマチゴウチ………見当違いも起こるもの、用心は慎重に
 メグジラタツンナ………憎らしい勘ぐりは悪い、片意地はるな
 メケントジャワライ………推測じゃ危険、暗算では信用が落ちる
 メゴンナケイレチョケ………食器類を入れるかごに入れて
 メザテヤツジャ………目が早く行動が早い、注意力が素晴らしい
 メザワリャトナリンクラ………憎らしい隣の景気、自分不平は隠し
 メシワキャオトコシ………男の飯脇休ませて、出番には努力させる
 メジルツリアゲチ………形相悪く品位がない、素直になったら
 メシワキュツカエ………やすんでいる時に利用、余暇利用
 メシイッパイカシナ………飯を借して、恥ずかしい事だけど
 メズラシガランジハリコメ………解ったなら応分の、理解したら
 メダタンゴツセニャ………見つからないように、少しは遠慮せよ
 メダシイナ………珍しいですね、変わり者で、かんがえられない事
 メチグレーイリー………塗目の仕上げは自分で、貴重な場所の仕上げ
 メツソオランキ………留守が多くて、久しぶりに在宅している
 メッテコンニドゲシタ………珍しい珍客、久しぶり来客
 メデテーナアズキメシ………赤飯は喜び祝い、人生にはつきもの
 メデンキカセニャ………確認する目を、よく見る事の大切さ
 メニシムフロタキ………煙りだけでもない事も、煙りの害も大きい
 メニイッテンノヤ………痛くない孫たち、ほこり対策を
 メノドカミンナ………目の毒になるような事は見ないが得策
 メノサキャユウミヨ………相手を確認、物事の判断が大事
 メノドキスンナ………見ると大変な事に、知らぬ振りが無難
 メバナカルカジュヒク………目や鼻から風邪を、防寒対策が利口
 メバリジヌクナツタ……めばりしたら温かい、風よけは生活の知恵
 メバノーダイジシヨ……目やら鼻を大事に、芽の時花の時を大事に

め メブトリシチダマサレン…うっかり目移りで失態、敵の目を欺く
 メビーキャシイチョル…好きをそっと合図する仲、相思相愛
 メベリヤソソジャノ…気づかず損をしてしまう、思わぬ失態
 メベリンネビキュ…量の少ない分は安くいます、値引きの商談
 メベリジオリオウタ…量が少ないのは話合いで解決した
 メヤニャユウフケ…目の汚れはよく拭いて、目は清潔に
 メヨリヤクチガサキ…口八丁のおしゃほべり、口が先走る
 メンクラヤーキムツブル…慌てて肝を潰した、異常な場面に遭遇
 メリメリイヨルド…微妙な音がしている、異様な音がする
 メレテートキャヨロコベ…めでたい時は喜ぶのがよい、祝事
 メロードマネレ…女達は寝なさい、女の子は早く寝なさい
 メンクラヤキムツブス…慌てて肝をつぶす吃驚よう、吃驚する
 メククリタモヒンムケ…目の玉を見開いて、しっかり目を開く
 メンドシイヒヤイモ…恥ずかしい借り金の利子、利息催促され
 メンドリャナカンド…雌鳥は鳴かないから、雌はおとなしいもの
 メンドマコーチョケ…雌鳥を飼って置きなさい、雌も飼う

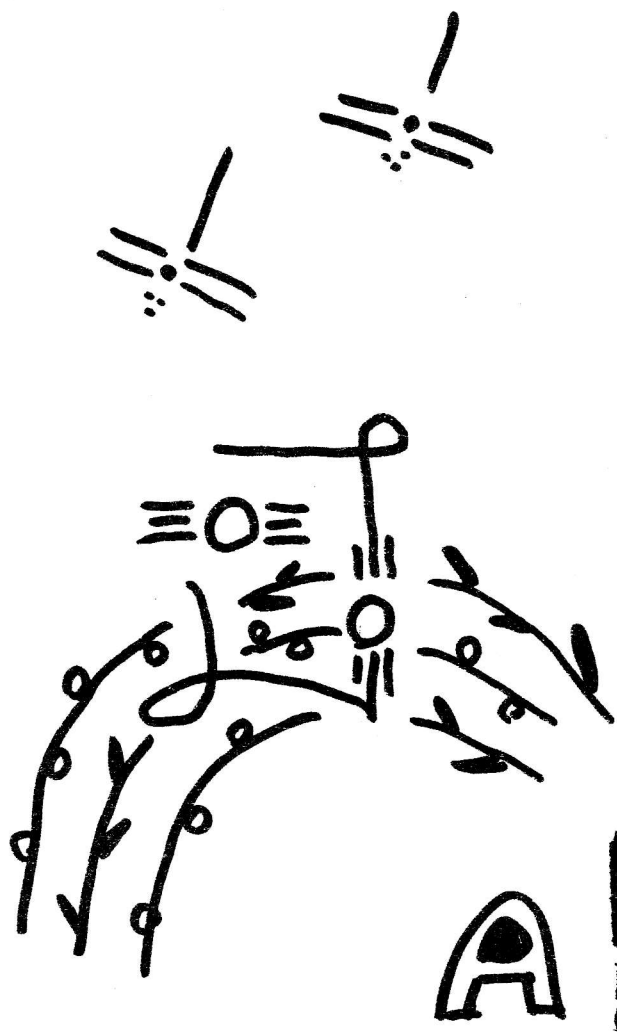
も モードガーデン…もうどうにでもなって
 モーチッタタメニャ…も少し貯めないと
 モウカルネルンカ…早寝も程度、こんなに早く寝るの
 モーセンチュソバカル…もうしないと言うのに
 モーヘースルンカ…そんなに早くするの、早期実行
 モーケタトキソソヨカンガエチ…儲けの時の損対策、備蓄も大事
 モイッペンシュウヤ…も一度してはどう、再度の挑戦究極の悦び
 モエタナケシチョケ…火災予防は入念に、噂は早めに消す事
 モエニャケブテェ…燃えないと煙りが目に染みる、噂の辛さ
 モオケタブントッチヨケ…儲けは備蓄にも回して、用心貯蓄
 モオクリャイイガノウ…儲けに期待している、投資と勝算を
 モガヤソソモシチ…反対するのも時期を見計らって、先見の目を
 モガワンシモムゲネー…反対しないのも可哀相、意見ははっきり
 モガワニャイインジャガ…愚痴を言わないといいのだが



も モガウナカクルド……反対すると隠れる、旨く利用したがよい
モギトツタンナラクエ…取ったのなら食べなさい、収穫なら格納
モグラモチガキヨル……もぐらが地下を進んでいる
モゲチョリャツケチョケ……壊れたのは補修して、補修で再利用
モゲタナクウナ……落ちたのは食べないよう
モゴテンマクルド……反対しても勝ち目はない、相手が悪い
モゲタラハモーカイ……外れたなら下駄歯を入れ替えて
モサモサスナ……落ち着きすぎでは駄目、機敏に動く必要あり
モジモジシチウシミ……見合いの恥ずかしい表情、牛見で嫁探し
モジッチヨルキ……誤魔化し技法、旨く言いくるませて
モズガルナアマヤカシ……可愛いがるのは甘やかし、厳しい躰も
モゾモゾシチクニナル……落ち着きすぎて苦になる
モタンコデンナクコタアル……同情した涙、悲しみの貰い泣き
モタンコデンネーチクルル…心情に同情の涙、貰い泣きする他人
モタツキャアブネ……慌てると危険、足もとは大丈夫か
モチマキクスノト……餅マキが始まる、祝いのひとぎ行事
モチサギユシナー……餅を下げて、供え物をはずして
モチオモリガスル……重荷になる負担、心の重荷になる
モチツキャカンノウチ…餅をつくなら寒の間に、黴の予防防止に
モチユツキノニ……餅をついたばかりの時、餅つきの直後に
モチカトカエンデンイイカ……持ち肩を変更しなくてよいの
モチヤデンチガウコタアル…専門でも間違い有り、時には的外れ
モチグリャイクニ……持ち上げれば究極の味に、刹那の快感
モチットジオガメタニ……残念観音菩薩を目の前に、時間切れ
モチクリャカワニャ…持って来たのなら買わねば、折角の商売に
モチモンナオッキーノ…性器は大きく立派で、奥までご殿が広く
モチモンクラベジマクル…性器比べに敗退、知らぬ別大品持ち主
モツチョランデンモッタフリ……自慢したがり屋、大ふろしき
モツチョツテンモタンフリ……控えめ、手の内は秘密
モツチットオクマジイレチ……も少し奥が気持ちよい耳掃除
モツチョコットオクガイイ……微妙に奥に入る隅の掃除機

も モテングタルヒトクチ……………他人の口には戸は立てられない
モテングツオコル…吃驚する叱り方、短気な叱責は見た目に悪い
モテレニャオイチョケ……………持てなければ置く、欲張りは禁物
モテンドントクナル……………持たない人でも得はのさる
モテングツモロウタ……………沢山もらった、世の中旨く出来ている
モテレンナウレシイガ……………多いのは嬉しいが、貰い物は高づく
モテンチウニウレシュジ……………それでも頂く悦び、ありがたい事
モトグッテンジョ……………からまってしまふ、複雑になって当惑
モトマジレチクンナ……………ぐっと奥まで何とも言えない悦び
モトグレットツョケ……………元まで失わないように、薄利でも商売
モトモネーキムゲネ……………元失いは気の毒、商売のかけひき
モナソウダンジャガ……………折り入って相談だが、信頼の相談
モニナンナチットド……………肝心の収量は少しだが、価値観が問題
モニスリヤシメタモン……………決まれば勝利、決断と度胸
モニナルトキャオシイ……………折角の機会が遅くて、時期選びの問題
モニナルゴタルナキオツキ……………うまい話にゃ用心を、影の欠点
モニナンナモトイリジャ……………損益を計算に入れて、商売の難しさ
モヌモラウトキャシャツポヌゲ…感謝には脱帽してもよいのでは
モノモライハヤメラレン…他人の知らぬ得がある、見かけに無い
モノンハズミバコシタ……………うっかりして失敗、運の悪い時に
モノグレユウテンソンナセン……………挨拶は人間性が評価される
モノモチンヨクシイ……………富豪のけちんぼう、強欲な人の物持ち
モミソコネーチクイチータ……………揉みを失敗して叱られた
モミユメーチョケ……………糶撒きをしておいて、糶撒きで苗が出来る
モミツキャウメード……………糶のまま精米すると格別においしい
モミユケーチョケ……………糶を湿らせて、もみき糶撒きの準備を
モムンナラコッチュ……………揉んでくれるならこちらから
モムトキャイエヤ……………揉む時には前もって、無理揉みは心配
モムナイイケンド……………揉んでもいいけれど後始末も、技術が必要
モムルグレーデン……………もめて困るような相手、心配の種つきない
モモイロチョーグ……………ピンク色の絵の具、桃色の絵の具

为道之侠公世恩



1) おばあちゃんの『おにぎり』

幸次くんは小学1年生で 今日にも元気にトギと学校かるん帰り道じ 話が弾んじ笑い声が聞こえちよる。途中まじ帰ったそん時じゃった。近所ん おばさんが幸次くんに 知らせに来ちくれたんです。

『幸次くん 早く帰っち おばあちゃんが具合が悪いき』 息をはずませちそんくれ一言うと おばさんなソキー座りくうじしも一た。よっぱず ばあちゃんがん具合が 悪いんじやろう。顔色がさっと変わった幸次くん 『おばさん有り難う』 一目散にツージ家まじ脇目もふらんじ。

昨日も一緒に話う聞きながら眠った。それだけ優しゅうじ大好きんばあちゃん。病気に＝じやろうか もし死んだらどげーしゅうか。あれやらこれやらが 頭ん中をクルクル回っちしまう。祭りん日にゃ袖うひっぱち 行った時欲しそうにしちよつた幸次くんに 玩具を買うちくれたおばあちゃん。熱を出した時にゃひと晩じゅう 枕許じ見ちよつちくれた おばあちゃん。

そげなこつー思うと『絶対死んだらいやじゃき』 大きな声う張りあげて言いて一気持ちう じっと堪えちトビ続けた。

『ただいま』 玄関かる走りこむなり おばあちゃんの部屋に。側じ介抱しちよつたんじやろう 真ッ白いエプロンを着た お母あさんが 出ち来ました。『おばあちゃんは』『大丈夫 今眠っちよるき』 そん声を聞いちほっとした幸次くん。へたへたとそき一座りくーじしまいそうになった。

『部屋に行ってんいい』『静かにせんとな』『うん』 そけだけ言うと幸次くんは じわっと部屋を覗き込んで見る。少し顔色が悪いけんど スヤスヤ眠ちちよるごたるんじ 安心した。

『お母さん 水おくれ』 と『あーよかった』 と 無事な姿を見ちえーと落ち着いたようです。

そんな晩はあんまり眠れんじゃつたが お母さんに起こされち目がさめた。幸次くんは一番先に 『おばあちゃんは』と 聞きました。外は天気がいいのじ おばあちゃんも元気になったんかな……と心配そうに幸次くん。奥の方から『元気になったき 心配せんじ学校に遅れんごつせにゃ』 と声が聞こえちくるじゃない。

『やったー おばあちゃん もう元気になったんじゃな』 元気そうな おばあちゃんの声に 飛び起くと部屋を覗きました。『おばあちゃん 顔色ゆうなったな もう大丈夫じゃな』 本当はまあ顔色が青白いんじゃが いかにも元気よさそうに見ゆるごつ 幸次くんは言って元気づけました。

『元気になった』とも 思うたけど 『もし死んだら』なんか思うた事が 悪かったとも反省もしちみました。

その日は 勉強が済みよせん 友達たーバイバイしよせんごつ 一目散に家につーじ帰りました。元気な顔じ迎えちくるるかな まだ床ん中かん知れん。丸くなっち寝ちよるんじゃあるめーか。それとん好きな仕事しよるんじゃなかるうか。頭ん中はおんげこんげ回る そげなこつー思うともう急がにゃならん。

『ただいま』 いつもよりゃ元気な声じ 玄関に入ったら炊事場じ おばあちゃんの笑い声。幸次くんは途端に嬉しいやら つーだ帰り道が馬鹿らしかつたごたる いんにゃやっぱ嬉しい 自分でんおかしいごたる涙が……拭いてん 拭いてん 流れ出ちくるき……『おばあちゃん』ち 呼ぶ声も出らんごたる気持ちになっちしも一た。そんなくれー嬉しかったんじゃろう。涙が恥ずかしいごたる目じゃ悪かるう。オトシかる出したハンカチじ押しぬぐうと 奥にと。

『あら 帰っちゃつたん たまがった』『おばあちゃん』 幸次くんがそのまま おばあちゃんに抱きついち 泣き出しちしもうた。『あら どうしたん……』 おばあちゃんに勇気づけられちよるち そげな思いが全身に伝わるごたる。『はい 大好きなオニギリがあるで』『……』 にっこり笑うち受け取りかけたが 『あっ口ゆすいじ 手を洗うちかる』 びよんこ びよんこ しながら洗面所に行きました。

顔も 心も 皆んな晴ばれじ 天気がよすげちお日様が 目につい いいもんじゃき涙がキラット光った。



『これ おばあちゃん 峠んぢいちゃんかる ばあちゃんに』ちもろうたで。急いじ帰っちゃつたら 『どうしたん』 ち聞かれち…ばあちゃんのこつ一話したん…そしたら ほら 蜂蜜。幸次くんはカバンかる取りで一た蜂蜜。おばあちゃんに渡すと ほんのり甘い香りん蜂蜜。いつも幸次くんの笑顔が可愛いち 褒めてくれよった峠のぢいちゃんが 優しい気持ちい心打たれたんじゃろう。

『有り難う いつも幸ちゃんが優しいあいさつするき きっと峠んぢいちゃんが 感心しちくれたんじゃろう。おばあちゃんは涙がこぼるる程 嬉しゅうなった。

いつか聞いた事がある…蜂蜜ん話をしました。そりゃ人間とどれだけ がいと関わりう持ちよるかを 教えちもくれたんと。蜂が豊かな自然環境じねーと生きて行けん。たった一匹じゃ生きられん事も。人間とはあらゆる物と自然とがうまいこと 調和しちおる事なんかも話した。

おばあちゃんの話を実剣に 聞いちゃつた幸次くん 『僕たちも自然を大事にしち助けあい 楽しい世の中にせんと悪い』『そうよ いろいろ教えらるるのに 案外気がつかんじ過ぎちよるんじゃねえ。

じっと顔見上げちよつた幸次くん 『蜂さんに有り難うち言わないと』 嬉しそうに笑顔がこぼると ばあちゃんの『おにぎり』を頬ばった。『おばあちゃん おいしい』『そう……よかった有り難う幸ちゃん』 『蜂蜜食べち いつまでん元気じな』 蜂蜜瓶を高高と持ちあげると もういっぺん『蜂さん ありがとう』 そん声がまるで 聞こえたごと羽音立てち 蜜蜂がつーじ行った。
★ 1年生向けん読み聞かせ台本です。



2) 『テマリコ』と『デンデンムシ』

今日も朝かる雨が降ちよる。遊びに行くにゃ濡れるき『どうしゅうか』ち 咲ちゃんは考えちよつた。軒かる落つる雨が ポトンポトン 可愛い音を立てち落てます。時折風がふくもんじゃきそん雨が 落つる場所ち変えち ポタッ ポタッ ち変な音に変わる。空を見上げち咲ちゃんを びっくりさせます。

草切りかる帰ったお母さんが テマリコン花を一枝差しで一た。『咲ちゃん テマリコン花に 『デンデンムシが止まっちゃつたでほら』 差し出えた枝さきにゃほんと 可愛い殻をしゃんと背負ち 落ちんごつ止まっよる。急いじ土間に下りち受け取ると 花の影じじっと眠ちよるんか 動かんじよる。

『デンデン虫はもう 朝ごはん食べたかな』 一人じ言うごと話しかくると お母さんはこっそり影かる『まだじゃけん何かおくれんかな』ち 言いました。咲ちゃんも続けち 『ほんな一緒に食べようえ』『おおきに ありがとう』 お母さんが返事したもんじゃき 顔見合わせち言いました。きつとデンデンムシも 喜かうじ朝ん食事が何か考えたり 待ちよるんかん知れません。雨はやまんけんどお母さんの濡れた 着物にはお母さんの匂いがほんのりと。

雨が降るきやっぱ花ん影かる 雨ん止むぬ一待っちょるんじゃろう。殻かる出るのじゃなかりうごたる。雨に濡れた花が風に揺ると 滴と一緒に落てんじゃろうかち 咲ちゃんは心配もしちよつた。考えち見りゃ食べたいもんが いつも側に周りにあっち そり一人間ないつでん親が作っちくるる 好きなもんも食べらるる。

『デンデムシゃ病気ん時やどげーするんじゃろう』 咲ちゃんは殻に入ったまま デンデムシに話かくごつ 聞いちみました。しゃが眠っちょるんか返事はありません。じわっとツツイテみたが動かん。一時見つめちよつたが 花瓶に差すと机ん上に飾りました。花瓶の花ん上じ眠っちおるごたる。

雨がえーと止みました。咲ちゃんはデンデムシん花瓶ぬ 外にでーちやる事いしち日向え置きました。いっときしちよると殻が動きでーち そしちデンデムシん目が角が出ました。じっと見つめちよる咲ちゃんが こんだタマガリました。『お母さん見て 見てデンデムシが動いちよるで』『本当 よかったこと』

外の明るい太陽がきっと まぶしかったんか知れんな。殻を背負うち動くデンデムシ 動くな遅いけんどきちんと 動きながら目的地に行くのじゃろう。『何を食べるんじゃろうか』 咲ちゃんは気が気じねーき 『何食べちよるんじゃろうか』 お母さんは答えました…『そうじゃなーやっぱこんめ一餌があるんじゃろうよ』『ふーん』『こんだ先生に聞いてみたら』

おてんきになっち風が吹きました。葉つばにしゃんとしがみちーたデンデムシは 落てんごつ必死に止まっちょつた。そげ一見えたきほっと安心しました。そしちひょいとこげな事う考えました。陽がひづーなったら殻が暑うなっち 煮えたりせんじゃろうか。死んでしまうんじゃなかりうか そげな事うかんがえよると ちっと心配にもなりました。優しい咲ちゃんらしい思いでんある。

そげな心配をしちよつた咲っちゃんの 目に写ったんは少しずつ動きでーた デンデムシじゃつた。『あーよかった』ち咲っちゃんな ホッとしました。揺れる葉っぱから落てんごつ 上手に目を出し角をでーち葉っぱん裏側に 歩いち行きよつた。揺れる度に止まったりしながら 時間なかかったがそれでん 葉っぱん端まじ来た時じゃつた。

アタデ風が強くなっち そんな葉っぱん枝が折れち落てちしもうた。『大丈夫』咲っちゃんは心配じ 側まじツージ行きました。そげな心配なんか知らん顔の 葉っぱにシャントしがみちーた デンデムシはじっとしちよつたが 目と角を伸ばすと咲ちゃんに 『ありがとう おおきに』 そげなお礼を言うちよるようです。

★ 小学1年生向けの読み聞かせん台本です。



3) 『ままごと遊びの夕立』

いつもんごつ和ちゃんが友達と ままごと遊びゅしよつたんのわ隣の美代ちゃん、一郎くん。学校かる帰ると集まっち 涼しい所かるツボ先に陽が西に傾くまじ ゴザが移動しち皆んなも そんなまま移動しち行く。ゴザん上にゃ赤いカンナン花やら シソん葉っぱ テマリコン大けな葉っぱなんか ままごと遊びにゃ欠かせんもんじゃき そこらじゅうにいっぱい。

赤えカンナン花を上手に シソん葉に巻いち小刀じサクサクち切る。和ちゃんの手元はもう母ゆずりん 女ごん腕が頼もしいもん。テマリコン葉に並べた美代ちゃん いつもそんな役割もきまच्चよる。お客さんな一郎くん ひざまずいちそんな格好がまた ゆう似合うき子供ん世界にも夢があच्च ゴザん端に並うた草履がええらしいき 見ちよると『ままごと遊び』が なかなか絵にもなる。

『おあがりください』 さしだされた ご馳走を頭をピョコリ。
一郎くんが受け取ると『いただきます』 食べるまねまでまるっき
り芝居ん 舞台が動くごたる…ままごと遊び。おいしそうな仕種も
皆の顔も そしち顔見合わせちニコリ。いつん間にか家じする親
ん事う覚えたんか 手先ん器用さも ゆう似ちきた。

お客さんのあいさつもいつ覚えるでもねー 習慣になっちおるの
ん 子供ん世界じ身につき頭じ覚ゆる 本当ん社会勉強かん知れん
。と そんな時じゃつた。西ん山に曇 稲妻がピカリ光った と そ
ん光が消えんうち グワラグワラ ガラガラ 途端に又光ったき
ままごと遊びん座敷が動く 引きずりくーだゴザん上じゃ たった
今までん『ご馳走』が ヒックリカヤッチ チチクリオウチ それ
こす 大事う作り立てた。

『早う入らにゃ濡るるど』 奥かるばあ
さんがん声。そん声が終わらんうちーもう 小粒ん雨が降りでーた
に続いち ゴザん端が軒下え入ったち思うち途端 ジャーチャーち
大粒ん雨が降りでーた。降るも降らんか 天の底が抜けたんじゃな
かるーか。降る 鳴る もう ふがよかったのうふんと。『早う座
に上がりな一』 ゴザをぐるっと巻くとそこにへんに 草履う脱ぎ
すてち上がった前座。



折角作ったご馳走は見るも無残に 哀れにも散らばちしもうた
ぬ 恨めしそうに見つむる美代ちゃん。同じ思いの和ちゃんじゃつ
て 悲しそうなごたる軒下ん雨にぬれちよる 赤いカンナン花が悲
しそうに見ゆる。いんげそれ以上に作った子供ん 気持ちが哀れで
んあった。

『蚊帳に入らにゃ雷様かるへソ取らるるで』 昔ん話う
そんまま受け継いじ子供ん世界に入る ばあさんの教えるなあ素朴
ん話んなかじ 今生きちよる幸せに感謝する気持ちゅ みんなが心
に刻むのん意義があるんじゃろう。

『蚊帳にはいったんならヒヤキ食べなあ』 ばあさんが心こめち作っくれたヒヤキは 子供ん心にも暖かく感じられた。『雨が止むまじ昼寝すりゃいい』 ばあさんに言われち横になった。子供たちん雨ん音が子守歌んごつ聞こえた。

いつんなかめ一か眠っちしもうた子供たち いったとき降っちょつた夕立が 虹のご褒美ゅ残しち止むと やんがち晴れ間が顔を出えた。雨もどうやらここまじじサートと晴れ間がでたもんじゃき 元気ゅ取り戻した子供たち。

いっ時ん頃い一郎が目をさめ一た。蚊帳ん中じキョトンとしち皆んなを起こしたら 和ちゃんも美代ちゃんも跳ね起くると 笑い声が部屋じゅうに広がった。風がちっと涼しいのん濡れた土がそうしちくるるんか。風も雨も濡れた木やら草やらん上を 渡っち来るき涼しい訳じゃろう。

.....

折角作っただご馳走も夕立雨にメチャクチャ でん元気じ楽しい思いでがあるなあ 恵まれているからじゃろう。友達がおっちばあさんが側におっち 夕立でん蚊帳に入る。ヒヤキを食べながら昼寝 健康じゃきそれも出来る幸せ。夕立に濡れた稲がすくすく育つ のん 風が涼しゅう吹くのん巡り合わせかん知れん。自然の関わりなんか大事にせにゃち。



『ヒヤキ食ぶるならま一あるで』ばあさんの声じさっき美味しく食べた あん味がふっと湧いち来るごたる。『おくれ』美代ちゃんが貰いに行っち 皆んなにも配っち『うちんちいさんにも持ち帰ってんいい』 優しい子供ん声に『持ち帰るなああるき食べなあ』と 包みゅ2つ用意しちあったのん ばあさんの心くばりじゃき。
★ 小学生2年生向けの読み聞かせ台本です。

子供のままごと遊びは昔の 子供同志の社会勉強の場でもあり又遊びを通じて家庭の生活や お互いが相手を大切にす事なども。

4) 『だんご汁は 心ん食べもん』

『また だんご汁な』 がっかりするごたる言回しじゃが 農家
ん夕食はもう定版でんあった。米を辛抱するこた一分かり切った生
活ん鍵。朝晩は働くき食いこむこち一迷いはねーが 寝る前になり
ゃもう 『だんご汁』う腹ひとつ食ゃいい。自家製ん小麦粉を上手
に塩と水と あた一炊く人ん情愛じどげーでん 味が表現さるる。

『やんかたへー子供が炊くんか』『せわしいきのう ちった使わ
にゃ』 常識でんあるごつ年頃になりゃ もう一人前ん料理ゃ炊く
こた一苦にならん。そんなかめ他の者たちゃ働いち 帰ると男しは
『ダカイ』 女ごしゃ食うことかる洗たく、掃除 なんでんせにゃ
農家は忙しい時間に追わるる。

足う洗うちあがらん…娘が炊いた『だんご汁』ん香りが 家ん
中う漂うのんみんながサカシイ証拠。『食うど上れや』親父ん一声
が響くと みんなが囲炉裏ん周りう取り囲うじ ついでくれた茶碗
ぬ受け取る。湯気が家族を暖こう包み苦勞した今日ん 無事すんだ
束の間ん和みが広がる。

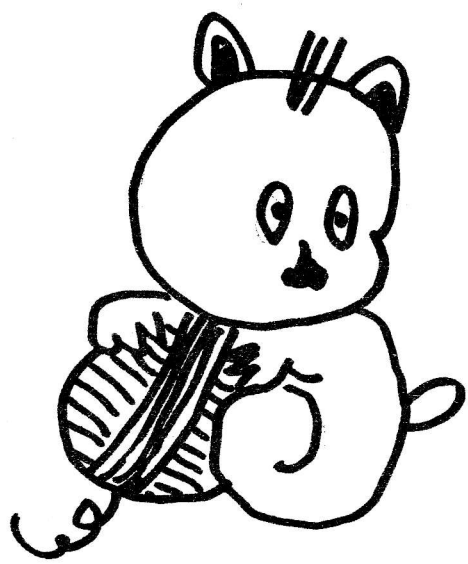
焚きだちん舌の感触に人の心がいただけ 冷とうなったのならこ
れ又心に囁きかけちくれ 温め直したな格別な味わいに変身もする
。小麦粉の消化のよさ、取り合わせに入るる具の選別の必要はのう
じ なんでん間にあい相性にもなる。イリコんダシそりー自家製ん
味噌とくりゃ 栄養価もあっちそこらん何もんにも かがて一食
物ん代表格かん知れん。

こねち、のぼしち、二つにシャクなんかは
芸人並みち 形容したしがあつたが誠ちそん 妙なる姿は年頃ん娘
ん 人となりまじ魅きたてちくるる。そげな懐かしい故郷
料理が 影ひそめられそうな現在社会じ 守り続ける主婦
には『故郷ん味』う これからも継承しちほしいけんど。



大合唱练习

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



も モヤシタナユウシチョケ…火事に気をつけにゃ、火元三代たたる
モヨーシタンカツギンコ……妊娠したらしい、次の子が生まれる
モヨウワリナキオツキ………天気が悪いから、機嫌がわるいよう
モラワンサキカル………早手回しはかえって迷惑、気の使いすぎ
モローチダマツョラン…貫ったらお返しも、親切は受けておけ
モライテーヒアイヲ………貫いたような高い利子、金貸し気分
モロウタナオーケネ…貫ったのはすぐ無くなる、汗水が高価な物
モンデンセツテンデラン……とことん終わった、これ異常は無理
モンクンツキヨガネエ………立派すぎて言う事なし、上出来で
モンジョキャヨロコブ……揉んでやれば悦ぶ、痒いところに手が

稲刈りが済んじ粃すりになった。近所んしとテマガイ仕事じ朝早うか
る 発動機がセセロシュ動いち 調子がいいとハカドル。米になっ
ち斗升じハカッチャ俵に入ると 4斗じ1俵ん口いサンドーラを
入れち 口繩じ締め上ぐる。中締めん繩うカクンニ俵締めうするが
こりゃ 若えしん受け持ち。持ち上げちゃ転がすたんび 年寄りが
端じ締めつけち品のいい 俵に出来上がる。

瓢箪形ん俵に両脇2本ずつ 繩をかけち そんな5本の繩を繋ぐゴツ
ほずみう掛くると 出来上がりになる。16貫…若いもんがヒョイ
と担ぐとサッと納屋に運び込む。粃刷り機械ん先じツウダ塵ん中に
ゃ チッタおろいい米も飛ぶき 手ミイじサブルなこん家ん嫁ご。
ハジカイ一ヌ堪えち 腰も足もダッチシマウ。そり一婿じょうがせ
つく夜はもう 情けね一ちこぼす。

米ん検査にゃ改良議員が来る サシじ米う引き出えち手のヒラじ見
ち また上手に俵に戻すと『2等』 これじ米ん値段も決まっちし
まう。赤え表せんがつけられち《1等は白、2等は青、3等は赤、
そしち不合格は紫》 俵置き積み上げらるる。が何日置くかすぐそ
ん内んいい米は 小作米になっち地主さんの倉に入る。

米は飯んほかにゃ酒の原料 粉にしちダンゴ、菓子、餅つきん取り粉、押し糊、味噌、飼料、麴、なんか使い道も多い。もち米になりゃ餅、ダンゴ、あられ、かき餅、甘酒、酒、おはぎ、餅菓子、なんか昔かる生活にゃ切り離せん食べ物ん王様でんある。食文化ん中でん日本人の主食としち長年命を支えちくれた大事な宝物でんある。

そん菓はこりゃまた使い勝手もゆうじ 利用範囲も広うじ生活ん中でん王様級ん代表格。どんくれ一世話になっちよるかわからん。

も モメンゴツフーユシヨ……………波風立てないように仲よくして
モメタナユウシタカ……………問題は解決したよう、終わりよければ
モユルゴタルナカ……………幸せいっぱい二人、恋愛真っ只中
モヨシタンナラミチモラエ…妊娠したら診察を早めに、早期受診
モライユジダリガヌクル……………貰い湯の情愛に泣ける、心まで暖か
モライユハゴクラク……………人の温かさにふれる、人情が心まで癒す
モリヤムゲネーケンド……………子守は可哀相で、同じ子供の心境を
モリデンヒトンコド…子守だって人の子供、子供の気持ち大事に
モロータンデンソマツニャデケン……………貰い物にも心がこもる
モロータンジイノチキ……………貰い物で生活支援、人の情けで生きる
モンダンナラシマツシヨ…揉んだなら大事にせねば、遊びは無情
モンクモクスリナル……………苦言が人生勉強、人の意見が聞ける幸せ
モンカダラダラクルンナチット……………文句の後のけち貰いは少ない
モンクイワルリャハラモタツ……………文句の中身では腹もたつが
モンクガミヨタミナル……………文句言われるだけ見込みがある
モンヌシメントミツカルド…門の影で色遊び、月も隠れてほしい
モンナアケチヨケネーガカイル……………姉に心くばりの弟がいる
モンカルハイレアケチャル…門から入って開けてある、気くばり
モンガエンヌトリモツ…裏木戸が縁結び、影から応援してくれて
モンヌアネジョガアケチャル……………義姉が気くばりして義妹の
モンカルアトサガリ…門から後下がりして帰る、逆さ入りは免除

や ヤイトニャモグソー……………お灸にはもぐさを、相性が効き目を
ヤイトネーケンド……………少ししかないけれど、ほんの少しだけど
ヤエーコチャネーガ……………大変だけれど、疲労が続くが
ヤオネーヒヤイ……………大変な利息の請求、利子に追いかける
ヤカマシーケンドノヤ……………煩いけれど、言われる理由もあるから
ヤキタタンネタロウ……………役には立たない寝てばかり、無精者で
ヤクタダズジャノー……………使い物にならない無精者、困った人間
ヤケクソンオオグイ……………やけになって大飯食い、腹も身の内
ヤコーモンナラクルワルル……………焼いたら大事、嫉妬もほどほどに
ヤサシイキホレチシモウタ…優しい人間性に惚れる、得をする人
ヤシキウチジャキシヨネー……………家に出来たら仕方ない、浮気用心
ヤシボンオオグイ……………食い気が旺盛な性格、食うことが楽しみ
ヤスモンニャテオダスナ……………安物の銭失い、高いものになるもの
ヤスージョリャユウナル……………休んでいれば快癒する、養生も薬
ヤセンワリユウクウ…痩せてる癖によく食う性格、痩せの大食い
ヤゼンナオオキニ……………昨夜は世話になりました、思わぬご馳走に
ヤッチョランデンミラルリャ…見られると誤解されても、濡れ衣
ヤッタコタアルメー……………実行ではないでしょう、試していない
ヤデンナヒズカッタ……………昨夜はご苦労様でした、苦労かけて感謝
ヤンドンセワクニナル……………お前の世話は気がかりに、不安で心配
ヤナンハシジヒルニユスル……………魚捕り棚じ昼寝じゃ鳥ん餌になる
ヤニュートツタンカ……………屋根を取り外したのか、松油を取ったの
ヤネカルキチョクレ…屋根が自慢の、葺きたての美しい屋根自慢
ヤニュツクロウ……………屋根の補修を、屋根の一部を葺き変える
ヤネガヤヒヨリ……………屋根変えは天気の良い日に、散髪は慶事か
ヤバサミャシアギー……………屋根鉄は仕上げに使う、腕の見せ所
ヤブレツデーデンヤキタツ…破れた衣服も使いよう、割れ鍋に閉じ
ヤマソージュシテーノー……………山の掃除の急がれる、時期が大事な
ヤミヨンアイビキヤキヲツキイ…暗い夜は危険が伴う、問題にも
ヤモーヤッチョル……………たくさんなものがあって、仕事がつかえて
ヤモメオトコニャウジガ……………男後家にはとかく蛆も湧きそう

や ヤメラレンゴツナッタ…止められなくなって、止める訳に行かず
 ヤメレンゴツイイキ……止めたくなくなり、止めるのは勿体ない
 ヤムーヤッチヤリャコス……目に余るからこそ、見るに見兼ねて
 ヤラトセンデンクウ……あまりしないのに食べる、労せずして食う
 ヤリツケンコツ……慣れない事を、初めての仕事に挑戦、勇気が
 ヤンドガテーゲ……貴方がたいがいにしなさい、いい加減にして

ゆ ユーコタキキャセン……言っても聞かなくて
 ユウテンキカンジ……言うのに聞きもせず
 ユイリイコウカ……お風呂に行きますか
 ユオイレチョルカ……湯を入れて入られるように
 ユカゲンドゲーナ……湯の温度はよいですか
 ユカンシタンネズミ……こそ泥棒がいるのでは、宝物捜しはどう
 ユキシナリンコツ……行き着いたばかりに、行く序でに立ち寄る
 ユキガケンダチン……行く序での仕事に、途中の儲け仕事も
 ユキヒランメシュ……ゆきひら《土鍋》で炊いた飯はうまい
 ユキアシュツクッチ…竹馬を作って、子供の遊び道具をせがまれ
 ユキャインジャガ……行くときはいいのだが、帰りが心配予想
 ユキシニヨル……行くときに立ち寄る、行く序での時に立ち寄る
 ユクタユーテン……行くと言っても、行く予定ではあるけれど
 ユケレメーチオムウ……行けないだろうから、行けないだろう
 ユコドチシヨル…行く準備をしている、出かける準備をしている
 ユサンゴツクッチ……ぶらんこ作って、子供遊具をせがまれて
 ユザッタラクイナー……ゆがいて出来たら食べて
 ユズリャウメー……ゆがくとおいしいよ、独特な味わいが出る
 ユウデクリャショワネエ……よく出来れば大丈夫、仕上がりは上
 ユドマヘーンナ……お風呂に入りなさい、風呂に入ったら
 ユナビュスンナ……夜の余暇仕事に精出す、夜間の仕事をしますか
 ユニデンヘーレ…お風呂に入りなさい、風呂に入ってゆっくりと
 ユニイッチクル……お風呂に行つて来ます、入浴に行きます
 ユノヒリードロオトシ……湯の平に入湯に行く慰労、田植え休み



ゆ ユバンナヒジーケンド……湯の番をするのも大変、追い焚きして
ユビキリャユーシヨル……子供の約束ごと、実行しないと大変に
ユベカルオランド…昨夜からいません、外泊して不在、所在不明
ユビュウカサンナ…指を貸して糸巻するから、その指であそこを
ユミナリマガツチ……弓のように曲がっている、すばらしい曲線
ユミンゴツエグージョル…曲線がか一ぶを描いて、絵になる曲線
ユメンウワゴツ……夢に見たのかうわ言を、夢の中のおしゃべり
ユモジターイモジンコツ………腰巻の古い言葉、いまき、おこし
ユラカシャアブネード……揺らしたら危険、好奇心が旺盛だから
ユリオコシャメガサムル………ゆさぶり起こす、慌てて起こす
ユロットシナ…ゆっくりして、時間に構わずに、のんびりしたら
ユルタカマメシチョケ……まましておいたら、知らぬふりして
ユレタンナラシランド……揺れたのならしらない、気がつかない
ユロドチマツチョル……揺らしたいと待っている、揺らす楽しみ

よ ヨークヤサカシイ…よく食うから元気者、食べれるのは健康の証
ヨーショランハユーチョル………酔っていないは酔った証拠
ヨーキイリー…たくさん入れて、多く入れてほしい、欲張り言葉
ユアキュマッチイケ………夜明けをまって出発、夜が明けて行く
ヨイトコドッコイ…やれやれと立ち上がる、動く時に弾みをつけ
ヨインクチンモウケシゴト……宵頃に思わぬ話、思わぬ儲け仕事
ヨイナコッチャネー………大変な事です、苦勞するけれど、
ヨカランコツツクリタテチ……思わぬ話に発展して、予想外の話
ヨカロウガイイハナシ……よいでしょう思わぬ話、予想外の話
ヨカッタジャネーカ………よろしかったでしょう、思わぬ幸せ話
ヨコガルイモマタイイ…横にして背負うのも、思わぬ知恵を受け
ヨコムキャボルド……横向きならこぼれる、濡らしては大変です
ヨコイヨコイイケ……休み休み行きなさい、休憩して無理せずに
ヨキートランヒアイ………沢山受け取らない利子、安い利息で
ヨキオイチョケ………横にして置く、そばに置いて、沢山置いて
ヨシレンコツユウ…話にならない事を、冗談な話を、話にならぬ

よ ヨダキークラベ……無精者同志が無精比べ、仕方ない人間同志
ヨヂノボルワルボウ…荒く上って行く悪餓鬼、無理に上って行く
ヨツンバイジスルンカ……上から乗りかかって楽しむ、正常位
ヨッチョリヤオスナル……立ち寄ると遅くなる、時間が足りない
ヨッチョツチツージイク……立ち寄って遅くなり走って行く
ヨッテンワリゴタルド…立ち寄ると気を使うから、迷惑かけそう
ヨドーシヒノバンヌ…夜通し火の番を、徹夜の火の番、年末防火
ヨミトットアイテンキ……当たった先見の目、予想が的中して
ヨミトーノーデン……読みたくなくても、計算は嫌いだけれど
ヨメタゴタルデ……蒸れたようです、できあがったよう
ヨメチョリャクワルル…蒸れたので食べたら、上出来の蒸し物
ヨマレタゴタル……相手に察知された、情報が漏れてしまう
ヨマワリャイップク……火の番の中休み、一回り後の休憩
ヨムトキャカッスル…読むときには手伝いします、計算の加勢を
ヨバレンニキタデ……招待されなくて、招かれないが来る客
ヨバンデンクルキャク……招待されないのに来る、突然の来客
ヨブリジサカナトリ……夜火で魚捕り、夜明かりで待ち合わせ
ヨベチュウテンクリャセン…呼んでも来ない性格、混じれない人
ヨボチオムーチョルガ…呼びたいと思っているが、よく考慮して
ヨラニャヨエード……より合わせないと弱いから、よりを入れて
ヨラルリャコマンナー……立ち寄られても困るが、迷惑でも好誼
ヨランジイヌルド……立ち寄らず帰るから、次の時に寄るから
ヨルカンシレンキ……立ち寄るかもしれない、寄って行くかも
ヨロケデンワキャガル…病身でも元気出したがる、病身のはけ口
ヨロケンクシー……病身なのに、ひ弱い体なのに大丈夫
ヨワンニユウタフリ……酔わなくても酔ったふりする
ヨワッタゴタルガ……弱くなったよう、健康が心配で、老衰では
ヨワンナコイサガノ…酔わないのは今夜の仕事が、後の楽しみが
ヨンジクレチオオキニ……招待されて感謝、呼ばれて喜ぶ幸せ者
ヨンジョキャマタガアル……呼んでおけば後々が、好誼の定法
ヨンデンキガキカン……呼んでも気使いしない性格、解りが鈍い

方言単語でん2つ以上が続いたもん　ここまじ『は……よ』まじ
1405語が入りました。古い生活文化ん方言　いまでも心に染み
ちいた温かみ　じゃき故郷は哀愁があるんじゃろう。同じ発音でん
上や下に続く言葉によっち　大きう意味も違うんが解るじゃろう。

エータ…湧いた、開いた　こんな意味が続く。

イレチャロウカ…入れる事あげましようか、入らせましようか。

ウメノ…埋めたばかりに、おいしい事です。

クエテン…壊れても、食われるものでも。

クメタンナラ…組めたのなら、汲めたのなら。

スソ…着物の裾、女性の性器、

セイタ…締め切った、しめた《戸や襖》、急いだ。

ツウダラ…走ったら、飛んだら。

ナオッタ…治る、お客の座にすわる。

ノキー…急に、のけなさい。

ミエチ…見えました、峠を越す仕事の区切り。

ダル…疲れてしまう、下肥。

キナ…黄色、いなご、来なさい。

コキー…倒れる、この場所に、

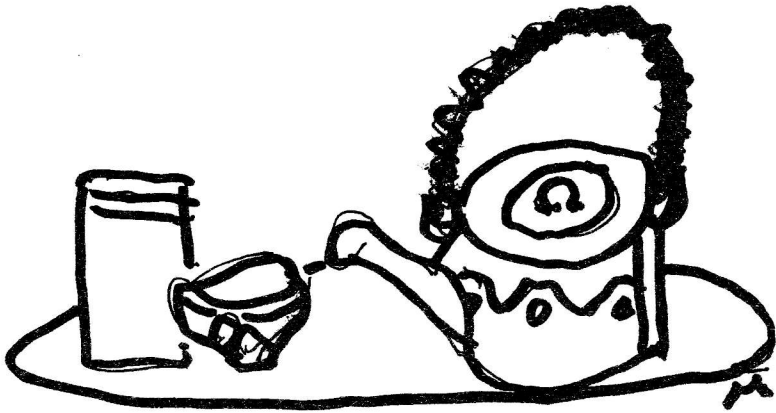
トイーキ…遠方で、耳が聞きにくい。

こげなふうに2ん単語でん　上下に続く言葉じ　意味が相当違っ
ちくるが　それが又方言の面白さ　いい面かん知れん。上手に作る
方言の味はふんと　生活ん中かゝる滲みでちよるごたる。

生活ん中かゝる生まれた方言な　こげな形ちじ
広がり受け継がれ　守られち来たんかん知れん
ち思うと　人間の知恵は使うはず　湧き出るも
んじゃろうなえ。



民間話 傳承



日ごろ往生

なな子は貧しい家に生まれたが 心はいつも明るいいい娘じゃった。今日は秋祭りじ皆んなはコシラエチ お宮にまいり神楽なんかを楽しみ お店じ好きな物も買うそげな時でんあった。なな子はそげな贅沢は出来んでん 人並みん美しい着物は着たい思いは 人いちばい強く持ってもあった。

でんそりゃ願えぬ思いち自分に言い聞かせ 自分も親にそげなこた一言えもせんじゃった。近所んちいさんが祭り行くんか ひょらっと立ち寄っち来た。「なな子はおんのー」「…………」「なな子」大けな声がこんめ一家ん奥まじ通った。「おるで まあ上がんなー何もねーけんど…」 親にしてみると上手にそう言う。本当は祭りちゅうてん 何も殊更ある訳でんありゃせん。

「いんにゃ ちょいと なな子を 祭りい連れち行こうかち」
「えー なな子をえ」
「たまにゃ 神楽見に行きたかろうきのや」
奥かる出て来た なな子を見つめち 誘いかけた。なな子も行きて気持ちゅ押さえち 親ん顔うじっと見据えた。「悪いなー なな子どげーするか」 親も半分迷惑 半分そん心くばりー嬉しゅうなっちほろりする。

「うーん」「行くごたら連れち行っちもらうか」「行きてー」
そげな いじらしい娘ん姿に 慌ててあり合わせ晴れ着を着せち
「すまんなえ ほんなよろしゅう お願いします」 親も感涙しちか声も詰まる。「そげな 心配せんでんいいっちゃ なな子 ほんな行こうか」 気さくに誘ったのん 畏まると断わるき さっと押しんーっ手じ連れち行くこちなった。

お宮かる神楽が弾むんか声も囃子も…………「寒いこたねーか」「うんにゃ」 控えめに小声じ返すと だまっち握られた手をしっかりと。

お宮に着いたらもう大勢が来ち 神楽を見るしやら店を見回すし
なんか 美しい着物が提灯にゆう映えちよる。そげな中に なな子
もコイサは着飾っちよる。それは他の子供にくらべりゃ 見劣るか
ん知れんが人間な見かけだけじゃねー。ままゆいごたる なな子ん
手を繋いだちいさんも なんか心はればれするごたる。

立ち止まっち『神楽う見るか』『うん』『それとん何か買うか』
それには黙った『…………』。そん気持ち ちいさんも シモウタ
そう思うとすぐ取り消すごつ 『帰りじいいのや』 と言いよせん
大声じ笑ったもんじゃき そん回りんしたちが釣りこまれち 皆ん
なが笑い 渦巻が起こった。

側んしたちも『お前かたん孫ん子』『おとろしゅう愛らしいなあ
ほら こりゅやろう』ち 土産に買ったんじゃろうに なな子ん手
に握らせた土産。『おれもやると ほら』 そんしも孫に土産じゃ
つたんじゃろうに……なな子は嬉しゅうじ嬉しゅうじ…… 祭りん
人ん波ん中じこげな 暖かい輪が広がっち行く。

『来ちよかったのー なな子 店を見ろうか』 ちいさんがこん
だ店ん前を連れて歩いた。握りあった暖かい手にゃ まるで親のご
たる温もり 人ん優しさが伝わちくる。なな子も始めち人の心ん
暖かい気持ちに触れち 有頂天になるごたる祭りん夜が だんだん
更けち行く。夢なら止まっちと ふっと思う子供心。

『なな子 どげーしたんか』 あんまりぼんやりしちよる姿に
たまがったが日ごろこげな 機会も少ねえんじゃつたち 恥じ入る
ごたる自分を責めち 『なな子欲しいもんな何でん買うちゃるど』
こんなに恵まれていんじゃろうか…なな子は自分の今ん幸せが
消え去った後んこつー思うと不安もよぎった。

『ほら こりゃどうか』 上品な玩具に飛びつきたいけど。

「心配せんでんいいのど こいさは俺が連れち来たんじゃきのう
帰ったら おとったんにも言うちょくき」 まるで竜宮城にでん来
たごたる気持ち なな子ん心にゃもう甘えようとん。差し出された
ん内じ一番こんめーぬ 握っち「これじいい」 遠慮遠慮しち言う
と 「そうか ほんなこりゅう買うか」 店の親父に差し出すと
「こりーなんぼかえ」「毎度おおきに」 愛想ゆう答えち こんく
れにしちよう…そげな表情に なな子はひょいと又遠慮する。

今まで買うた事も 買うち貰うた事もねー 玩具に心が躍り胸は
張りさくるごつ嬉しい。

「おとったんどうにも 飴がとでん買うち帰るかのう」 一人言
んごつ話すと 包んじもろうち なな子ん手を引くと残りん店屋ん
前う通って 元ん道に出た。あんまり歩いたきーか欠伸う かみ締
めたぬー見たんか 「ちっと眠とうなつたんか」「いんげ」 返事
はしたもんの 大人かる見りゃもう子供ん眠てーな こらえ切れん
ごたる。

「はい来い おんぶしちやる」もじもじしちよつた なな子も真
剣眠とうなつちよつたんか 素直におぼるると肩に顔すりつけた。
二人ん肌ん温もりが通う なな子も遠慮のうおんぶされたもん 今
幸せんまっただなか。苦労した毎日でん「こげな日もある」ち 思
うと苦労が無駄じゃあるめー。軽い躰におんぶした ぢいさんも
「よかった 連れて来てよかった」ち 自分に言い聞かせ自分も納
得しち家路に歩いた。

途中でん 「お前ゃいい事うしちやっちょるのう」「そん子はゆ
う働くのや」「ゆう世話しちりなあえ」 皆んなもそげー思っち
よるんも こりゃあ本人の日頃ん努力んご褒美じゃろう。「おおき
におおきに 皆んなん気持ちも伝えちょくきの」 そよ風に励まさ
るるような なな子をおんぶした ぢいさんも幸しゅう腹一杯味お
うたごたる 祭りん晩じゃつた。

なな子が起きたんはもう陽が上がっちゃった。『あーゆう眠ったなー』 ちっとおかしかったんか 言い訳んごつ言うとコソコソと出ちきた。『ぢいさんに いいもん買うちもろうたな』 母親が横目じチラット見ち言うと 『うん……高かったち思う』『りゃーちよいと見しい』 父親が言うと 『うん』 素直に返事すると奥かる持ちち来た。

近所んしたちも『ゆう働き賢いき 皆んなかる好かるる』 これが日頃往生ち言うんじゃろうち 評判でんあった。

働く、親孝行者ん、笑顔がいい、そんくせ ませちよる訳でんねえき アクも 生意気でんねー。

『なな子 ちよいと ぢいさんかてーこりゅ 持ちち行ってくれん』 『はい』 明りい返事がすりゃ もう家ん中おもう和む。包みをさげち ぢいさんかて お使いに行く なな子はヨンベンお礼を言わにゃならん。何ち言おうか……『よんべは おおきに』 これじいいかなー それとん…… 子供なりに迷うけんど いい思いは知恵はうかばん。そんうち ぢいさんかてー来ちしもうた。

『ぢいさんーおんのう』『……』『おらんのかな どげーしゅう』 裏にまわち見ると 鎌をとぎよる。草きりでんするんか…… 『ぢいさん よんべは』『おーなな子か 早えのーなんしか』『よんべは おおきに』『ありゃーゆう あいさつが出来るのう』『これおかちゃんが 持ちち行けち』『りゃーなんかのー』

親切が行き来する 人ん世の中。なな子もそん仲間入りするごつ ぢいさんの祭り土産が 朝んひとときんほのぼのとしち 二人ん顔を一層明るうもしちくれた。『あんのう なな子』『なに』『お前にやった土産はのー皆んなが お前にち ご褒美にやったんど』 キョトンとした なな子には大人の気持ちゃ やんがち解るごつなるじゃろう。

威信もかけたい橋

大正2年に完成した橋ゃそん頃ん橋にしちゃ 誠ち立派な橋じそん頃ん村長さんな 自慢して一気持ちゅ じわっと隠しちよつた。村長さんな合併になった時 『あげな貧乏ん村』ちなんか言われとうねー それだけじゃのーじ『けっくしゃやるものじゃ』ち たまがるごたる顔がちょいと見てえのんあった。

そん頃ん錢じ総工費が2万円 金策かる工事ん進展なんかまじ気をくばり石工たちにも心使う 人情も兼ね備えちよつたもんじゃき そん見事な美しい橋にゃ見物しに 来たしも多かったち言う。なんちゅうてん白い組石ゃ大分ん 『かんたん』かる運んだち言うき 船じ運ばれち来たんじゃろう。

そりゅうそん頃ん野津原ん馬車は有名じゃつたき 何台も連なちかる運ぶ そりゃもうめえにちじゃき 『かんたん』かる大道峠やら芹、木の上やらもう珍しもん見たさに 待ちよつた子守うするしやら 暇ん年寄りがくわえタバコじふんとなえ。砂利道ん音がガラガラ響くと時にゃホコリも舞い上がる。

そん頃ん『かんたん』ち言や 遊郭んあった場所でんあった。港ん潮風ん匂いと遊郭んオシロイン匂いが 混じった田舎にゃ珍しい香りが 人間の心ん中え和まするごたるもんも。馬車を引く馬方ん歌う『馬子歌』にゃ あん五助さんの自慢の音が聞かるるごたる。『今日もはりこみよるな』『ひどかろう』『いんにゃ錢とりじゃきな』 顔なじみになったしが交わす挨拶にゃ もう人ん巡り合わせが花んごつ咲いちょる。

石工んしは近所に宿をとっち 石風呂に入っち一日んダリう取るが 離れち働きに来てちょるこんしどうも 人ん子人ん親やっば近所んしの和やかさを見りゃ 家ん事も思いで一ちしまう。

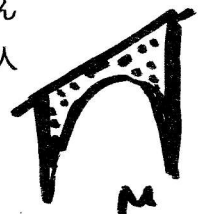
明治22年に村が合併によっちでけ 明治40年まで農村独特な村で辿って来た。隣接の農業と林業が主体の農村地帯。そん殆どが米、麦、を中心に穀物類が生活う支え 大半は小作の田畑を借り使う小作人。じゃき出来た米は地主に納めるこち一なる。のこった分じ『いのちき』売らにゃとてん…生きられもせん。

そげな村同志が行政の進め方じ 明治ん合併が続いち再度ん合併になった。諏訪村ん村長さんな『どげんことがあってん』ち 笑われんごつ東ん玄関でんあるこん橋う架くるに 執念ぬ燃やしたこちいなったんじゃつた。代々村の世話役やら人望も厚かったき 役所を自宅を開放した時代もあつたぐれえ。

何ちゅうてん谷ん深え川じゃき 元は川まじおれち川を渡っち又のぼる。そげなこつ一繰り返しちよつたんじゃ 人がおらんごつなる…それじ橋う架くるこち一なり ほんな諏訪村でん光る橋にしち野津原と一緒にになった時にゃ『やっぱえれえ』 そげなプライドもあつたごたる。そんな人間性も持ち合わせちよつた。

目の前まじ野津原村があるもんじゃき 思い切り素晴らしい橋にこざわったんかん知れん。やんがちこかも熊本に向かう『熊本県道』になる。往還が出来ち橋が架かりゃもう 人ん通りも多うなっち村もゆうなる。出来たもんが何でも売るる そげな情熱も加勢しち見事な橋に仕上がっちゆく。

熊本県道が通つた頃に出来た 石組みん橋が下詰と小岩戸にもあるが こん橋は切り石ん組み上げによっち 見事に輝いちよるき人が改めち見直す。下かる見上げた景観な上から見えんき 尚更素晴らしいそん橋ん価値が解らんのじゃあるまいか。精密機械じ切つたごたる 石ん組合せふんと小にくらしい力作。石と石んバランスがこうも巧みに 作り出す美形は人ん情熱と人ん執念が 見事に表現された宝物でもあるごたる。



そしち明治40年にいよいよ諏訪村と 野津原村が合併となっち
橋が光る。執念ぬ燃やした三浦村長は 今後とも3回村長を務めそ
ん頃は おそらく歩いてめーにち役場に通ったんじゃろう。が橋を
渡るたんび『よかった、よかった』ち自負しちよるじゃろう。こん
橋がもしなかったんなら どげーしたもんか……

熊本県道が通るこち一なっち 一つん案としち辻原を回る話があ
ったんと。なんさま今ん道は坂がひじいもんじゃき そんな頃は馬車
でんブレーキゅかけち くだったけんどそれでん 荷物が重いと車
ごと馬も飛ばされち 馬頭観音様を建立しち安全をすがり 駒よけ
を作っち事故防止に懸命じゃつた。

そんな話が出た時い辻原んしが言うにゃ 道が通っち人通りが多
うなると泥棒も来る。ちまゝほんとそんな理屈も一理あるき 皆も思案
した挙句に反対したち言う。まゝそげな事じ坂がひじい柿野坂〈現
在の場所〉に決まる。そしち村長さんの執念の橋が恩恵にもなった
。古い石組ん橋と新しい方式ん橋が静かに 人の行き来をじっと見
ちよるこち一なっち。

バイパスが出来ちダムが出来ち そげな思いでん橋も昔ん苦労や
執念も 忘れられるごつなりよるが 確実に残っちよる橋が今も
通る人たちん役立つたゝきと 喜びも又あらためちかみ締めよる
じゃろう。歴史がくり返されいつか不要な物に そげな悲しい顛末
にならんごつ 皆じ見守りて一もんじゃけんど。

2万円た一今ならどんくれーじゃろうか。価値観の問題もあるが
日とん情熱 人の気持ちは金銭でも計測でけん大事なもん。歴史を
築き守るしがおりにこす 今ん自分たちも不自由のう暮らせる。そ
げ一思うち渡っち下から見上ぐると なんか仄かん夢とロマンが囁
きかけち くくるごたる気持ちになっち来た。



住みついた青大将

スルスル静かに移動しち ネズミゃ狙い家ん中ん害虫を掃除しちくるる 『ヤワタラヘビ』人間にゃ害はせんき 昔かる共存しちよるなお互いが 大事にしちおるからじゃろう。茅葺き屋根ん中じゃ夏涼しゅじ冬はこれまた暖いき 贅沢な住み場所でんある。少ねえ穀物ゃ荒らし回るネズミ ちよいとでんワヤクすりゃもう スルスルと巧みに走ったかち思うと ネズミン叫び声……

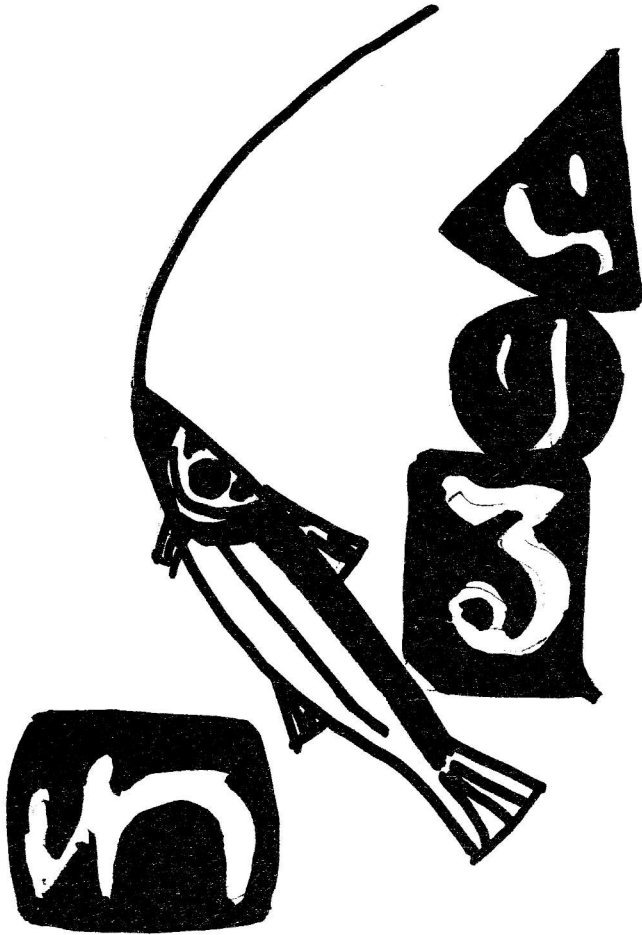
屋根替えする時にゃ『あした屋根ん葺きかえするき』 なんか人に話すごつ言うと両手をパチパチ。青大将も聞こえちそん日はよそに出ち 屋根替ゅ見守ちちよつた。美しゅうなった匂いんいい屋根ん下に 自分がんおり場所を作ち青大将は これかる又ここんしと なかゆう過ごすこち一なる。

夜中に何か動く音……そりゃネズミがどうでん来たんじゃろう。感覚が鋭いき自分かる専制攻撃に出る。親竹ん組合しゅ越えち縄を上手に伝わる。茅ん隙間もヘイチャラ ヘクコッパ ネズミが何か食いよるシラシラケンニナッチ。さっと伸ばした舌がうまいこと 足にまとわりち一ち引き寄せた。

ネズミがここじおしまいになる。ヤワタラヘビも自分の責任ぬ果たしたごつ 大けな腹をいっとき横になち休憩すりゃ いつんなかめ一かスラットなち平気な顔。ペロペロ愛敬ゆう左右を見回しながら 自分がん場所にヘモドッチ知らんふり。家んしもシカト気もつかんうち ヘビとネズミン勝負は終わった。

正月にゃ餅を供えち『今年もよろしゅ頼むで』 節くれたった手じ心ん中じ頼む人間とん絆 ここにも生き物ん情愛が受け継がれちよるんじゃろう。多くの自然の中じ関わちち生きる人間も ヤワタラヘビも幸せかも知れん一時じゃ。

魚樂語



ら…ライネンノコツユウナ…先の事より現在を有利に生きる方策を
ライネンノコタオニガワラウ…先の事より今を大事に
ライシンナイトシイ…来年はよい年に、きっとよい年もある
ラカーンハジマリ…楽する事は苦勞が待っている事
ラキースندانナ…安々とおわったが、予想以上に楽に終わる
ラキーナツタンカンシレン…苦勞のかがあったよう
ラクインキョデンヒジード…見かけには、楽と見ても苦勞もある
ラクスンナクオミタキ…苦勞のご褒美、楽な日々は苦勞した効果
ラクナアタクガアル…楽していれば苦勞がある
ラクシチチオモヤハラタツ…楽すると思うと腹がたつ
ラチャアカンノヤ…なかなか思い通り行かないから

り…リヤーフントヤ…まあ大変な事、吃驚したが大丈夫
リクツヨリテオダセ…言い訳より手を出して、不言実行
リクツンカオユウナ…理屈だけでは通らない、理屈より実行
リコモンナカズグチイワン…手より口、利口者は口数が少ない
リシダケジコライイ…利子だけで我慢して、元金は暫く待って
リチギダケジャクエンド…堅物だけでは、時には才覚も必要
リャーマー…挙をつかれ、あらまあ吃驚しました、突然の驚き
リワモラウキツコーチョケ…利子は貰うから使いなさい
リンシキュウシイチ…下敷きして空間を作る、湿気防止の対策

ろ…ローカントオシミー…廊下の戸を閉めてください
ロクシュモネエ…嫌われ者、誰に似たのか、箸にも調子にない
ロクデナシデンツカイヨウ…嫌われ者でも使いようでは役立つ
ロンスルヨリヤハタラケ…口数が多い、言うより働いたら

宇曾山参りん若いしが毎年 面白半分中途ん藁ござみゅセリカ
ヤシチ来る。若さか迷惑ち思う百姓しも 『まあいいか若いうちん
楽しみじゃろう』ち がまんしちよつた。ある年たまたま帰りよつ
たら雨になった。と若いしたちがいきなり藁んかたずけゅ加勢 あ
まり濡らさんじ済んだ。『おおきにおおきに』 礼を言うと畏まっ
ち『せりかやした』 詫びを言うち平謝りじゃつた。

『ゆうわかつちよるど 俺どうもゆうワヤクシヨッタきの』 何とユーモアん解る人たちじゃろうか。いんにゃ皆んなおなじじゃ若もんに 花をもたするんじゃ。ワヤクもほどほどじしちまあ 若さを楽しめ……来年もセリカヤサニャ心配すると 病気でんしたんかち心配するど……。次ん年も起きち見るとセリクリカヤッショナル……『ふんと 仕方ねーのー まあいいか サカシインジャノ。さてーと 単語またはじむるで……えーと 『わ』かるじゃつたな。

わ…ワイタキヘーンナ………沸いたから入ったら、お風呂に入ってワオスギカイー………樽の輪を入れ替えて、輪の取替えをしてワカッショリャセン………解ってはいないから、納得していないワキャワカラン………意味が全く解っていない、理解していないワカッショナルチュウガ………解っていると言うけれど、早呑み込みワキカルクチュダス………側から口出し、余分な口添え、助け船ワキンハテオイチョケ………端っこにおいて、邪魔になるから外にワクモンジャネード………沸いて増える物ではない、努力しないとワケーノンチョイトド…若い時代は短期間、いつまでも若くないワタラニャナランヒトンミチ…倫理の世界淫らな事は禁止、人倫ワットドーモイク………私たちも行くから、私たちも参加したいワッテンカマヤセン………割れても心配せずに、割れても仕方ないワッソドーモイレチ………私たちも仲間に、私たちも参加したいワトウッチクンナ………綿を打ち直して、綿を売ってくださいワデンマエーチョケ………輪で遊んでいなさい、輪を利用した遊びワドンカキーキタカ………お前も間に合ったか、時間に来たのかワズローチヨロケタ………病気で弱って、病気で元気を失ってワスルリャコス………忘れたものですから、忘れたばかりにワサボンコマッタ………早生で迷惑している、知恵つきが早くてワニスリャヒトニ………束ねると一輪に、都合よく一荷にワネカカッショツタ…畧にかかって困っていた、旨く畧にかかるワノーミチマワレ………畧を見て回る、仕掛けた畧の点検に

わ…ワノーカケチョキャー…罌をかけておけばよい、予防線を張る
 ワビュウチナカユウシヨ…断りもいのちき上手、仲良しは得
 ワメキマワル…激怒する、怒り回って始末におえぬ
 ワモキレチコマンノヤ…輪が切れて使われない、日ごろの管理が
 ワヤクシュウドチ…いたずらをしようと、いたずら盛り
 ワヤクタドウニンナラン…役立たずで困る、使い回しが悪い
 ワルガネンオオジョウギワ…悪だったが終わりはさすが
 ワラトビュカケチョケ…藁の雨よけをしなさい
 ワレタナイチニンマエ…処女じゃないようだ、結婚して
 ワレタンナイッコモンネエ…完熟していないから、処女ばかり
 ワレタントヤ…一人前になったよう、結婚して性交も
 ワリーデンコライイ…悪くても我慢して、反省しているから
 ワリーノヤ…悪いのは解っている、病気らしくて、無理言って
 ワルボウデンテンキガイイ…悪がきだけどいい所もある
 ワルガキンオヤオモイ…悪坊なのに親孝行者、見かけによらぬ
 ワンニニチベッピン…お前に似て美人、鳶が鷹の子を生む
 ワンカテイキテーケンド…お前の家に行きたいが、敷居が高くて
 ワンニヤスマンケンド…お前には申しわけないが、言い訳が旨い
 ワンナラデクルキ…お前なら出来るから、信用しているから
 ワンデンコマッタコター…お前でも困る事がある、見かけにゃ

ここまじ辿りちーちゆうサンニュウしたら 18022語になった
 ごたる。故郷じ使われちよつた『野津原方言』 こりゃ古いイノチ
 キン生活用語でんあった。じゃき皆んなが大事に使い うけつじ
 立派に生きてんおる。中にゃ同じごたるもんもあるかん知れんが
 まあコラエヨナ。そしち使うと悪い言葉もあるけんども こんだん場
 合いは記録に残すんが目的じゃき ゴメンナ。コレカル先じこげな
 調査なんかをするしが 何かん役にたちゃもうウツドウ嬉しい
 き。歯をこーじ使うちくれなあ それが為めん冊子じゃき
 野津原だけしか使わんじゃつたんも ありゃいっぺんも使
 うた事もねーんも であろうなえソジャキ面白かったで。



方言小話の解説

朝っパラカル ノキー来るきタマガッチしもうた。ジャケンド
ゆう考えちみりゃヤゼン 話しゅしたモンジャキ 起ケノニ来たん
がそげ一言ゃ どっちんもんにも 理屈ああっちよる。★ パラカ
ル…早くから。ノキー…急に。タマガッチ…吃驚してしまう。ジャ
ケンド…ですけれど。ユウ…よく。ミリヤ…みれば。ヤゼン…昨夜
。モンジャキ…ものですから。起ケノニ…起きてすぐに。ソゲー…
そんなに。ドッチンモンニモ…お互いに。アッチョル…あった訳。

それじ何んか いるんかん解らんき まあ上んなーち ご前ん戸
口う開けた。いつでんは寝ぼすけん とったんも せせろしいもん
じゃき 納戸かる出ち来た。何ごとち思うたんか あんげこんげ
首うまえーち立つちよる。★ ソレジ…それで。イルンカン…必要
かと。ワカラんキ…解らないものですから。マア…まず。ゴゼント
グチ…玄関の戸を。イツデンハ…普通なら。トツタンモ…父親も。
セセロシイモンジャキ…うるさいものだから。オモウタンカ…思っ
たのか。アングエコンゲ…あちらこちら。マエーチ…回して。タッチ
ョル…たっていました。

さかしいなーいい事じゃ よろけでん困るき。わずらやーそれこ
すどんこんならん。ちよいと前じゃつたか 坂道うつーじほらっこ
けち おおごつ作りたてた。目にごみんやつが飛びくーじな。★
サカシイナ…元気なのは。ヨロケデン…病身では。ワガラヤソレコ
スドンコンナラン…病気すればそれこそ大変でどうにもならない。
チョイト…少し。ジャツタカ…でしたか。ツージ…飛んで、走って
。ホラケコケチ…つまずいて転げて。オオゴツ…大変な事。ツクリ
タテタ…出来事になって。ゴミンヤツガ…ごみが。クージナ…こん
でな、入ってですね。

◇ 方言は難しいけれど 可愛い情愛が込め
られているような 仄かな温もりもあるのではないのでしょうか。

古、今、盟



5. Y. 画

野津原にゃ昔かるん唄があるが そりゃー故郷を愛する表現でん
ある。そげな風土が人情が受け継がれち 今ん故郷があるんかん知
れん。No.7じゃそげな優しい情愛を 心に秘めち現在ん人たちが
故郷を忍んだ作詞を並べち見た。自然に囲まれ恵みも豊かん緑と
美しい『せららぎ』もう 見ただけでん詩になり絵になる。

★ 山恋おろし

久住おろしが 身にしむ頃も	寒のもどりは 北風強く
桜吹雪が 舞う頃も	いてつくような 朝まだき
山が私を 呼んでいる	行こうか止めよか 迷えども
どんより曇る 空の下	くじけちゃならぬ 八十路今
今日も歩こう 故郷を	黒土踏んで 鍛えよう

はるか向こうの 小高い山は
谷を隔てた 峰つたい
父の霊所の ある里よ
朝の散歩にゃ 遠すぎる
腰で笑うは 通り風



★ お雨さま

待てど暮らせど 雨はなし	宇曾のお山の てっぺんで
からから乾く 庭の木に	神のお守りを する人は
水やりながら 父さんが	水を飲まずに いるじゃろか
天を仰いで つぶやいた	川もないのに 困るじゃろ
一雨ふっち くれんかのう	雨はどうすりゃ 降るじゃろか

ある朝早く 外見たら

雨がばらばら 降っていた
雨じゃ雨じゃと 叫んだら
父さん飛び出し 嬉しそう
お雨さんだと 言うんだよ



★ 宇曾山様も

獄の御座所のお膝元に 車千台止まるとは
宇曾山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

山は山でも迷路の山は 人で一山出来るとは
宇曾山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

昔狐のねぐらじ 今は人間様が遊ぶとは
宇曾山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

★ 野津原ふるさとまつり

宇曾のおんたけさんに 秋風吹けば ア ヨイヨイ
年に一度のふるさとまつり 町をあげての大祝い
ハ 来ちよくれ 見ちよくれ 聞いちよくれ

広い会場に露天が並ぶ ア ヨイヨイ
里の果物手づくり野菜 土の香りが懐かしい
ハ 来ちよくれ 見ちよくれ 聞いちよくれ

うまいもんなら何でもござる ア ヨイヨイ
おでんやせうま蓬餅ポテト 七瀬味噌から久保茶まで
ハ 来ちよくれ 見ちよくれ 聞いちよくれ

俄かづくりの舞台に上がり ア ヨイヨイ
粹な姿で品よく踊る 町の有志も七変化
ハ 来ちよくれ 見ちよくれ 聞いちよくれ



★ 男の喧嘩唄

お前んかたん子は年から年中 何をぬかすかお前じゃちゅうてん
うちん畑を踏み荒らす 元は小作の子じゃないか
イタチを叩き蜜柑を盗む こっぼり分限に婿入りしたが
貧乏餓鬼じゃしつけが悪い 人吉女房に困ったあげく

よその女房をちよくちよく盗み
口ゅう拭うち知らん顔
車で渋柿盗りいった事も
俺は知っちよるどたへらく言うな

※ 歌詞は原文のまま使用させて頂きました。作詞者は生まれはよその方ですので 多少方言の使い方がことなります。



野津原ん里にゃ馬子ん五助さんのごたる 街道ん荷物運びやら人を乗せち行く 駕籠も行き来しよった。駕籠かきん元締め所にゃいつも待ち合わせん強靱の男たち。馬なんかもおったから『立て場待ち場』 そげな人や馬がおったき旅も 荷物もうまいこと流れちおったんじゃろう。

そげなしが仕事ん疲れに唄うたのが いわゆる『馬子唄』じゃが七瀬ん里にも はいからな馬子唄が残っちょった。筋肉隆々とした馬子が唄う声が山々を 谷谷を流るるなんか何とのどかな事か。山ん中じ炭焼きする煙りが流れ そんな煙りうバックに唄う馬子唄にゃ故郷思う哀愁もこめにれちよる。

馬子唄

苦勞中かゝる生まれた『生活ん声』にある。そげな中じ新しいけんど『七瀬馬子唄』 こん唄は昭和60年に 地元んしが作詞 当時ん県内じゃ民謡研究家 加藤正人が曲想を湧かす為み 野津原を何べんも回っち 四辻峠じ夕日の美しさに 一挙に筆を運んだち言う。

『七瀬馬子唄』

- 1) アオよ いさめよ 宿場はそこじゃ あれが街道の石だたみ
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ
- 2) 宇曾に行こうか 荒木に出ようか 四辻峠の思案顔
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ
- 3) 秋葉越えれば 火伏せの森に フロー煮えたか諏訪の灯じゃ
ハ 七瀬のせせらぎ もみじかチラチラ ホイホイホイ
- 4) あん娘年頃 姉さんかぶり いつか覚えた馬子唄を
ハ 七瀬のせせらぎ 小雪がチラチラ ホイホイホイ

かって農村は米う節約しち売る事じ 生活う支え賄のうち来た時代じゃつた。じゃき夕飯ち言やもう『だんごじる』が定版。それも煎子んダシに季節ん野菜が入る 自家製ん味噌じ仕上がるともうそりゃ天下逸品ち言いてえが めーにちになりゃそれも抵抗があつた。『また だんごじるか』 腹う立つりゃ損ち解ちよるに やっぱいっぺんな言うちみて一心情。

そげな場面ぬ醸しで一たんが『ほうちょぬべぬべ』ん唄

- ◇ ほうちよぬべぬべ 今夜の夜食 チリツンテンシャン ヨイショ
ヨイショ
- ◇ 早くぬばねば 夜があける ソレエヤソレエヤ ヤトヤンソレサ
- ◇ わしの思いは 宇曾山やまの ほかに木はない 待つばかり
- ◇ 踊るうちでは あん娘がいちよ あん娘育てた 親みたい
- ◇ あんた百まじ わしゃ九十九まじ 共に白髪の生えるまじ

年頃ん娘になりゃもう『だんごじる』 炊くなー一人前になつちよる。手際ゆう炊くぬーじっと 近所ん ばあさん連中が見ち こんだ牛見が《嫁捜し》来たら てんしょむしょ褒めあぐる。そん一手に『盆踊りん晩』もあっち 見初めらるりゃもう いつんなかめーか 話が進んじ仲立ちが せわしゅう あんげこんげする。

だんごじるは…炊きだちも旨えが 冷えてんこれ又旨い。そしち次ん朝ぬくめたぬー食うのん けっくしゃ旨えで。栄養があり消化もゆうじ 自家製ん材料と季節ん旬の味。辛抱もあるが理屈に叶うた『栄養食品』かん知れん。若い娘たちん のべのべしち裂いち鍋に入れる そんタイミングまさに絶妙ち言うか。



日本世界



ばばさんがんお使い

学校かる帰えったらすぐ カバンぬそこらにホタリナゲチ 奥に寝ちよる ばばさんに声うかけた。『5時まじ遊び行っちくるで…何か買うちくるものなねえ』寝ちよるけのどソゲーひじいんじゃねえ。それでん不自由じゃもんじゃき 子供が帰いる頃にゃ用事う考えちようち 子供に頼んじよる。

とったんも おかちゃんも外じ仕事しよるき はばさんのお使いは 子供ん仕事ち決まっちゃつた。孫ん足音がすると ほっと安心するごつような ばばさんでんあった。『今日は用事はねーけんど隣んばあちゃんが なんか持っちくれち やっちょくれち 言よったで』『解った ほんな 行っちくるで』ち 言うたあと 『ばばさん しゃわねー』ち 一言付け加えた。

5時頃になったら『ただ今』 元気のいい声がおおきゅう響いち帰っちきた。奥ん部屋を覗くと 『ばばさん淋しくなかつた』 顔を見つめち言う。目をくるくるさせち返事を待っちよる。『元気でゆう遊んだな 口うゆすいじ 隣んばあちゃんがくれたぬ 食べなあ』『そげーしゅうか ばばさんも食ぶる』 隣んばあちゃんがくれた おやつう取りに茶の間に行った。

さかしゅうじ動き回る子供に ばばさんな目を細めち 本当に嬉しそう。茶の間かる紙袋に包んだ 隣んばあちゃんの『おやつ』『うわー嬉しい 石垣餅 ほら見てん ばばさん』 薄茶色ん皮がうまそうに光ちよる餅。『ありゃー旨そうなこと 腹がへったじやろうき 食べちよきなー』『うん こればばさんにあげる』『いいき あんた食べよ』『ばばさんと 一緒に食べてーもん』『そうな』 そん一言はどんくれー嬉しい言葉か。ちっと起き上がろうちしたら 横かる支えち起こすと 甘えるごたる嬉しそうに起きち 二人じニッコリ笑ったんがほほえましい。



★ そこらに…その周辺に。ホタリナゲチ…乱暴に投げ出して。

行っちくるで…行ってきますから。ねえ…ない。けんどそげーひじいんじゃねえ…けれどもそんなに心配するほどでもない。それでん…それでも。もんじゃき…ものですから。考えちょうち…考えておいて。じよる…頼んでいます。

とったん…父親、おかちゃん…母親。しよるき…しているので。ちよつた…決まっていた。するごつような…するように。けんど…けれど。やっちょくれ…あげてね。しよわーねー…心配ないですか。

させち…しまして。くれた…頂いた。そげーしゅうか…そうしましょうか。

さかしゅうじ…元気で。石垣餅…甘藷を賽の目に切ったものと小麦粉を練って餅にする。へった…すかした。食べちょきなー…食べておきなさい。いいき…いから。たべてーもん…食べたいのです。どんくれえ…どのくらい。ちっと…少し。ごたる…ような。……★……★……★……

夕ごはんのしこうか 台所かるいい匂いがしち 一日がやんがち終わるち思うと ばばさんも辛さも忘れられる孫たちとん 時間になる。『さあ夕ごはんにしょうえ』ち 言うに『ばばさん僕が持ちいくで』 ち手伝いもする。そげな孫ん優しい気づかいが もう嬉しゅうじ仕方ねー。

次ん日学校かる帰った 『ただいま 5時まじ遊び行くけんど 買うち帰るもんねえ』 ばばさんに声をかけた。『買い物して来ちくるる』『いいで これじ便箋買うち来て 残りは小遣いにあぐるき』『いいで』『いいき 欲しい物でん買いなあ』『飴玉買うてんいい』 無邪気に言うに きらり輝くごたる目。ばばさんなもう最高ん幸せんごたる気分になちよつた。足音がだんだん遠うなち行くけんど 握りしめた手にしっかり落とさんごつ500円。心が結びち一たような ばばさんの気持ちが孫にも伝わるごたる。

★ しこう…準備。しち…して。やんがち…やがて。しゅうえ…
しましろう。そげな…そんな。しゅうじ…しくて。もんねー
…ものないですか。あぐるき…あげますから。いいで…よいですよ
。ごたる…ようです。なっちょつた…なっていました。ごつ…よう
に。結びちーたような…結びついたように。

ほんな子供ん遊びたーどげなんじゃろうか…◇春 凧揚げ、羽根
つき、コマ回し、うち〈うっちん、びた、ぱっちん などち呼ぶ〉
ゴム銃、陣屋とり、縄跳び、雪足、毘かけ、ゆさんご、隠れ鬼。

◇夏 水あび、蝉とり、じょうらん取り、つばな取り、さとがら、
ぎしぎし、いちご、ビワ、グミ、ちぎり。魚捕り、てぼつけ。川祭
、柱松、盆踊り、祭り太鼓、太鼓山引き、肝試し なんか。

◇秋 桑いちご、木の実、甘根、山芋、柿、がらめ、なんか取り。
やり鬼、穴入れ、猫ん玉鉄砲、紙鉄砲、どんぐり回し、亥の子、名
月さま、秋祭り なんか、飛びくらべ、崖滑り、川干し、なんか。

◇冬 夜回り、輪まわし、飛びやいこ、藁あそび、雪足あそび、薪
物取り、松葉かき、しめ縄作り、藁囲い、なんか。

子供はこどもなりん遊びん中じ 子守しながらでん生活ん端っ覚
え 体験しち大けな子は遊びっ通じち 子供同志ん関わりん決まり
なんかも 自然に覚えち来た。こなさるると大けな子が向かち
助け悪い時ははっきり悪かった 断りも言うだけん常識も身にちー
ち行く。女の子にゃ皆んなが加勢する 薪物取りなんかん時にゃゆ
っ解るし 子守ん加勢したり遣いに一緒に行く 困った時ゃ助けあ
うなんか 遊びん中かゝる自習するだけん 心構えも育ち行ったも
んじゃつた。悪いこつーしち隣んしが親に 断りゅう言うちくるる
なんか 当たり前んごつあったもんじゃ。親同志も内容は先刻承知
でんあったがな。



犬の恩返し

山奥の離れた家で おじいさんが拾った犬が飼われちゃった。とてん利口じ甘えん坊主 じやったが おじいさんの言いつけやゆう聞いち めーにち楽しゅ暮らしよった。犬は賢くうじ恩は忘れんとん言います。人間でん世話になった事あ ゆう覚えちよつちいつかきっと お返しするんがいいじゃあるめーか。

春ある日じゃった。畑ん畦ん草を焼くこちーなっち ほんのちっとうじゃき 『近所んしに加勢しちもらうはずん事もねー』 ちおじいさん 一人じするこちーした。『今日は風もねーきよかったわい』 安心しち いつもんよーにねじ鉢巻きしち 枯れ草に火をつけた。

犬も側じ見ちよつたが 熱いき『キャンキャン』ち 鳴きながらちっとさがっち見よった。燃え始めた草ん煙りが 回りに広がっち 白い幕うひろげたごたる。火が燃えさかると風も起こっち 空気が軽うなっち風がそき一起こる。火の勢いがゆうなっち ちっと消さにゃち おじいさんが動いたら そんな時足に草が巻きちいた。

そしち運の悪い時ちしようがねーもん 転げちしもうた。さあ大事……『こりゃーしもうた』 おじいさんな焦って慌てち起けあがろうとするけんど 足がよろよろしち言うこつーきかん。そん野良着ん裾に草ん火が燃えち一た。慌てて起き上がろうちすりゃ する程足ん自由がきかんじ おまけに着物にち一た火は広がるばかり。

『ふんともう……こまった事じゃ』 もがき苦しむぬ見た犬は 『おじいさん 大丈夫な』 犬がそげな思いじ駆け寄っち来ました。じゃけんど おじいさんな気が焦るばかり 着物にち一た火もでえぶ広がっち 畦ん草も燃え広がっちおります。と そんな犬が何を思うたんか側ん井路に飛び込みました。まあ水あ冷てーのに。

全身ぬずぶ濡れにしちかる 急いじゃおじいさんの背中まじ来ると 背中にち一た火の上を転がりながら 火を消し始めたんじゃつた。二度三度真剣走っちゃ消し 消しっちゃ走ったもんじゃき 火はで一ぶ消えたけんど 草んほうは広がっち心配になるし おじいさんな起きあがれんけんど 着物の火が消えたき一安心したんか 気を失のうちしもうた。

犬ん懸命な活躍じ おじいさんな軽い火傷じすんだごたる。畦ん草も風があんまりの一なつたき それからは燃え広がらんじ消えたごたる。あたりは白い煙りだけが流れちよつた。そげな煙りに近所んしたちも心配しち 駆けつけちくれちたまがったようじゃつた。

おじいさんが気を失のうちよる側じ 火傷した足うねぶりながらそれでん おじいさんの事う心配しち じっと見守っちょつた。

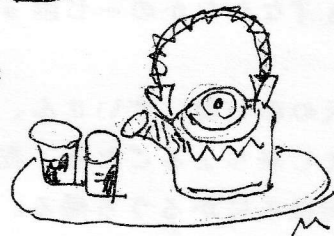
近所ん人たち戸板じ運ぶ おじいさんの姿う見ち 安心したんかそん犬もぐったりしち倒れてしもうた。そりゅう見るとなんと いじらしゅうじ優しい犬か 健気な火傷したそん犬も抱いち 家まじ帰りました。犬ん健気なさも近所んしの 暖かい取扱いにしてん 今 里ん人たちん気持ちちが春ん陽のごたる ぼかぼかぬくもりも。

一週間はずすると おじいさんも元気ゅ取り戻いた。犬も元気になつち里も あげなこた一何もなかつたごたる春に。おじいさんぬ自分の事より真っ先に 助けて一ち思う犬ん気持ち こんめ一動物ん日頃世話になつちよる 恩返しする優しい心。いつまでん大事にせにちち思う。そげな事を思い出しちよる側じ じっと見上ぐる犬ん目のなんと美しいことか……。

何日かした後 おじいさんが畦を見ちまわりました。後先になつちついち来る犬も 『よかった よかった』ち きっと 心ん中じ思いながら 足取りも軽う歩いちよつた。春。



田んぼ
の
木
の
香
葉



昔ん農村ん四季作業 〈昭和35年…45年頃〉

1月…こいた一て一げ一〈旧正月じゃつたき〉初すりが多かった。

はじかい一初すり機械ん尻口にゃ そこん女ごしが手ミーじさべちゃ ちつとでん米がありゃ儲けもん。小作に納めち残りう売るきち一なりゃ そげ一米飯んじょ食えるるはずもね一き 米選機下ん米でん有難えもんじゃつた。

小雪んやた一舞うち中封絞むる手先ゃ ヒビギレアカギレ権現様ん指。『ほずみ』う絞むるとまこち品がいい儀。もみ殻焼き〈クンタン〉 野焼きギシ焼き、地起こし、山ん仕事 薪ん取り、植林の準備、鞭焼き、炭焼き、こげな仕事お男しがする。餅つき、鏡餅、あずき粥、甘酒、アラレ切り、漬け物、何かは女ごしん仕事。

凧上げ、羽根つき、カルタ、コマ回し、やり鬼、陣屋取り、わなかけ、雪足、なんかは子供ん世界。座敷い並べた餅がイロクとサゼあつめちしまい込むが 丸小餅なんかかまげに入れちよく。寒い間ん代用食でんあり保存食でんある。焼き餅に砂糖醤油つけち ちつとコガレタな一又なんとん言えん旨いえもんじゃつた。

麦の世話は昼前まじ凍ちよるき 山仕事に行き枯れた薪もんぬ2輪ひとかるい。山ん中はぬき一し働らきゃけつくしゃ ぬくもるもんじゃき早う荷が出来りゃ 馬鹿話い華がせ一ち気がち一ち帰ると もう昼が時のめ一に過げち怒らるる。そこじハブトかやしゃ損じゃき『なかなかの一じ困った』ち 恩に着せちよく。

南天の赤い実、すいせん、紅梅、梅ん花も咲き始めち 春がもうそこまじ来ちよるごたる。在所に帰いつちよつた嫁ごが みやげう一杯前後ろにかるうち帰る。アラレ切りうする側じ甘酒が出た。心まじぬくもる百姓じゃきこすん 何はの一でん食うにゃ不自由せん 今日も幸せん束の間ん一時でんある。

2月…一年じ一番寒い季節風も吹く時期 山火事が多いが畦や岸
焼きするんも適期。旧正月休みゃ農家でんゆっくり 若嫁が里帰り
するんもこん頃。気苦労じヤツレタ姿に母親は 冷てえ水う惜しみの
う使うちご馳走ん好きなもんぬ…母ならではん心尽くし。セリの
香り、紅梅、すいせの花 沈丁華の香り ウグイスん声も。

麦ん溝あげシチョカニャ雨水がたまる 寒い時にゃ植林 割木が
ゆう売るるきハリコム。薪もんとりじ山に入りゃ 若いしゃ楽しい
ごたる。好きな娘ん分まじ束ぬりゃ あた一人じそこらそんげに
ゃ 姿と隠しち……。藁もそろそろあげにゃ春先にゃ 野仕事忙し
ゅうなる。葉屋さんが定期に回ち来て 情報が飛びまわる。

麦踏みシヨルト近所ん年寄りが 気を効かせち声がかかるんも心
和む。『ヨコワンナ 甘酒沸いたき飲みな一』 嬉しい呼びかけに
母を思い浮かべ 目頭が熱うなる。母は達者か どげーゆうしちく
れてん里ん母にゃ勝てん。それがヤンガチ何十年もすりゃ こんだ
自分がそげーなるき 人間の世界は不思議なもんでんある。

早えしゃもう雛人形を飾りよる 嬉しい孫娘に自慢する年寄りん
横顔ん 皺はだてじゃね一年輪が見らるる。やんがち自分もあげー
なるち思うと 有意義な人生を嫌われんごつ生きテートン思う。心
だきゃ貧しゅうなりと一ねーもんじゃが。炭火じ焼いた餅ん味ゃ誠
ちウメーもん 20日正月が過ぐりゃぼちぼち 温うなっち春。

と一ふ造り、エンドウん花が咲き茶の花が目に染むごたる。炭焼
きん煙りが山肌を流れち オセダス男しん馬子歌が乙女心を乱す。
陽なたじツクロイモンぬする脇じ 孫がヒヨンヒヨングリじ作った
コマを なんと上手に回しよる。見よう見まねじ覚えち いつんな
かめーか上手になった。体験と自習がゴゲナ子供ん世界を
作り 広めち育ちいくんが嬉しい事。隣近所ん人たちも
自分の子 孫んごつ優しゅう暖こう見守ってんオルキか。



春の七草…セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズシロ、ナズナ、以上が春先の代表食用として 餅腹酒びたしの胃腸を守る 生活の知恵でんあったんじやろう。こげな習慣しきたり 思い合う気持ちが四季んつれづれに お互いを気使いながらに 移り変わっち行く。

3月…そろそろ猫柳、レンゲ、ツバメん飛来じ 春がやっち来るともうテンショムショ忙しゅなる。麦が背伸びしヒバリがさえざるんも トーイモン伏せ込み、野菜ん種まき、野焼き畦焼き、植林、ワクドも鳴き始むると ひな人形が並っじ女ん子は嬉しそう。ばばさんが手際ゆう並べち チョコント座っちよるなんか絵になるな。

春田を起こしち前畦う切ると 土ん中かる虫が震いあがっち出ち来る。蜘蛛が時んめーエバう張る もう春ん息吹きがそこらじゅうに。春祭り神楽 在所んしが来るち聞くと とにかくご馳走並べち接待。薪小屋をチョイト眺めち 冬ん間に取りくうだ薪物が はりこ一杯積んじやると 親たちゝ安心しち土産ん餅うさげちイヌル。

そん反対ん年じやつてある 病人がおったり仕事ん段取りが悪いと 薪物小屋にゃトミーが寂しいごつある。薪もんなチョコット祭りに来た親も 早々に引き上げちムゲネコサレ。学校んお別れ遠足もありやもう卒業式も近え。『百姓すんのか』『……』返事が重て一な一ひどすぎるに毎日ん生活見ちよるき でん誰かせにゃち長男が心に決むりや 他の子たちや養子か分家になる。

粉糰三合ありや養子行くな…ち言いよったがな。でんいのちきにゃ変えられんきそれもいいか。『あっこん養子はマコチゆう働く』こうなりやもうしめたもんじやが。人知れん苦労も待っちよる。春になりやアタデ忙しゅなっち 仕事ゝ目が回るごつある。これも宿命じそん運命と正面かる勝負 そき一百姓ん底力も出るんかん知れん それが百姓冥利でんあったけんど。



4月…早え家にゃもう鯉のぼりが立っちょる。苗代シコウがあっちこっちじ 茶摘みっスノジャロウ茶園の掃除も。春田起こしが進むと藁あげ、岸切り、馬屋ん肥だし、気の早えしゃ初ん選別も。そろそろ出はじめたワラビ、タケノコ、サンショウ、ミツバ なんかん押し寿司が味覚うそそる。隣んしがクレタなチットジャキ又どんこんねーうめー。

五月人形も飾るごつなりゃ鯉のぼりが賑やけえ。花だよりもそろそろになりゃ 梅も大きゅうなった。梅っチギッチサトガラを折っち ギシギシも子供ん食い物。ゆうまあ腹もセカンことか。長雨もこん頃にゃ降る 女ごしゃツクロイ洗たく 男しゃシュロナワ作りもう 日が長うなったき早起きんしが 一仕事しち帰りヨセン仕事っ追い回す。まあゆう働くち思うたらもうすぐ 嫁ごが来るんと。

イタテケ、ラッキョウ、カジカ 春野菜が出回ると なんかしらん気忙しい。そうこうえするうち山間部じゃ苗代。ワクドが鳴くきイチベ忙しゅうなっちくる。『茶を飲まん』『忙しいき』『忙しいな皆一緒に』 釣りこまれち茶をヨバルルと 茶受けに火焼きが出た。『こりゅう早う言わんきもー』『悪いんならいいで』『アリユミヨ またそげんこつゆう』 爆笑した一時はやっばいいもん。

井路普請にサンワを踏み固めち 昔んしの知恵が今でん通用する農村。あちこちかる茶摘む話し声 セガワレチ高い声はこん春アルイタ嫁ごか。婿じょうん側に駆け寄っち甘ゆるもう ふんとちゃ。そげーしちここん土地ん水に馴染む。そしち子を生み育て姑になる歴史が くり返さるる故郷の状況。

昭和36=55年頃ん野津原農村の 生活描写移り変わり4月ん場面。そろそろ出稼ぎもあり生活様式も 随分ゆうなっち来たが現金収入を求める労力のあり方にも 移動が変化が出始めてんおった。そしち若妻ん店が開店をする。



5月…ツバメが巣づくりを始め 茶摘みも忙しゅうなった。鯉のぼり竿に環がカタカタ音響かせち 男ん節句ダンゴが粽と配らると 『やっぱ来たか祝儀せにゃのや』 本当は嬉しいもんじゃが。アジサイ、ツツジ、アザミ、もう夏んごたる日ざしに田植え準備。やんがち梅雨入りナリヤもう 麦は濡らすワキイカンし 苗は太るき田こしらえも忙しい。降ってん仕事ぁひとめん。

みかんの花ん香りに酔うごたる 山肌ん天水ん田は降った時こしらえんと 田植えが出来んき気が許されん。川原んイドラン花ん白いんが目にシムゴタルそペー ホタルがつーじ来た。娘たちが夜風にスソなびかせち 相手を待ちょるんか。たばこん芯止めやら竹ん皮お拾うのんこん頃が一番。

カンカラがあつたき取っちきたら ばあさんが手際ゆう餅う炊いちよる。年寄りが手慣れた食い物ん世話は 外仕事うするしにゃ誠ち有難てえ。早生ん麦刈りがはじまりヨセン こんだ田植え準備も進む。そん方へらじゃたばこん下葉とりも。百姓ん仕事ぁもう油断しちよるやもう 時のめーに追い越されちしまう。

『やんかたもうトイムケ植えたんか』『遅いな誰でんするきの』嫌気悪口は常日ごろからんジョウク。そげな口喧嘩まじりがあるきふんと ズウゴシナイトーデンこらえち仕事する。地獄入りち言うごつこん5月6月ぁ 猫ん手も借りてえごたるがのう。みつばちがハリコミヨル。あれもイノチキこれものやふんと。

山苺うふとろくさんチギッチ 若いしが戻って来た。青年団の男たちは人手ん少ねえ家に 加勢した戻り道じ苺があんまり目にちいち。牛飼いする娘たちもそげな姿にちよいと 惚れたんか側により添うなあマンダラじゃねえ。皆ん気持ちも解けおうち微笑ましい。何はのうでんひづうでん働きよりゃ きっといい事もありゃ嬉しい事もあるもんじゃ。ソレコス幸せそのもんじゃ。



6月…春田起こしの後に撒いたダグが 染みくうじ肥料になる。そんな頃ん精一杯ん肥やし。そんな肥だめも風呂さきやら 洗たく水も入っちゃつたごたる。年4回グレーは汲み出さんと 用足しん時いおつりが跳ね上がり 尻べて一ひつつく事もある。隙間風ん吹きあぐる上チョウズ場でん 寒さはコタユルし年寄りにゃ尚更。

アジサイ、クチナシ、ユリン花が咲き 暑さがもう夜が明くるとすぐこたゆる。春蚕がアガリはじめ タバコン乾燥 麦刈りなんかと交差しち 田植えん準備かる早えしゃ 田植え拵え。朝起けち見たら隣んしゃ苗を取っちゃしまう。そげんふうじゃき田植えも早え。油断しちよると畦ごし植えラルルかん知れん。

松ん剪定するしもありゃラッキョーん漬け込み。ウナギう手さぐりじ取る若いし、テボツケしち朝早う引き上ぐりゃ 重てえ手ごたえに顔がほころぶ。大雨が降りゃ水がね一天水田も田植えが出来る。エンドー、トーマメが熟れ ビワも色づく。竹の子料理やらカンランの酢味噌あえ 牛馬ん使い手が仕事うしながら 口い運ぶ火焼きんウメーコト腹ん減っちゃりゃこす。

田植えが機械化さるりゃ そんな分出稼ぎも多うなっち 託児所や共同じ手マガイしち田植うするしも だんだん多ゅうなった。田植えん済んだ若い夫婦が里ん加勢か 雨具を抱えち車じ出かくる。農業が様変わりする流れん中じ 農協市場に野菜何かが山積みされ 非農家んしが朝買いに来るのん 時代が新しゅうなった証じゃろう。

手回しんいい家はトイモン草取り 山ん下狩り 竹ん皮を集めち干すと収入にもなる。タバコの跡地にも田植え準備がはじまり 里ん景色は日一日ごち一変わっち行く。大雨が降り続いちカラリ晴こんだジリジリ暑い日が続く。そしち夕立雨がガラガラ雷も鳴る。夏定番な遠慮の一押しかけち 人間ぬヨコワセンもんじ元気か。

★ 百姓農家ん年間行事作業毎月編…7月から12月分な『続編の№8』に掲載の予定です。達者にしち
待っちゃつちな。



五助の派



ちゃんと目を開けち見ちよつたけんど 『まっと目をひんみーち見らにゃ』ち 怒られた。忙しいないが片面ほたらけーち どきいウッセタンカどんこんなりゃせん。ゆう見よったら片隅ん白ん脇い 片一方があつたき今度ぁ 目をつぶしてん解るき 『こきーあつたど』 大声じおるーだら『やかましい』ち 笑いよる。しまたつかんち思うたが こげんやちー取り合うてん始まらん。

★ まっと…もすこし。ひんみーち…うんと開けて。ほたらけーち…捨ててしまつて。どきー…どこに。ウッセタンカ…捨てたのか。どんこんなりゃせん…どうにもこうにもならない。ゆう…よく。つぶしてん…つむつても。こきー…ここに。おるーだら…叫んだら。やかましい…うるさいと。しまたつかん…どうにもならない。こげけんやちー…こんな個性の人間に。

こんなに説明がつくと納得も行くでしょう。解りにくい方言は人間の心の中の謎言葉かも知れない。然し使っていると何となく暖かな情愛も 含まれているから生活の方便として 長い間使われたのであるでしょう。文字以上の意味もある方言には そんな人の心優しい思いも含まれているのです。

★ 七瀬川子守唄があります。子守奉公に出た娘が里恋しい思いに 子守どうしから苛められると 無性に腹がたち救いを求めたい気持ち。でも人間社会の貧富はそれを敢えて 区別してもいるが それに耐えてこそ人間性も育つもの。やがて年があけた娘は物や金はなくても それ以上の人間性の宝物をもらったと思う。生涯の貧富とは心の貧富であり 見かけ判断では価値がつけられないよう。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 母は達者か 歩けば三里、 | 2 子守あやしち 水車ん脇じ |
| じゃまな あん山 | こなされ 泣いた |
| 影を落とした 七瀬川 | 日暮れ悲しや 七瀬川 |

3 夜風が肌を 心を責むる
櫛けしたてん
恨む思いん 七瀬川

4 過ぎたあん瀬も 情けん淵も
花せせらぎに
抱いちくれそな 七瀬川

丸木橋いちょこんと立ち 流るる落ち葉ん行く先う 考ゆるともの
う見つむる子守。『どうしたんか』『……』『何がおったんか』
えーと気がち一た娘。見ると涙がポロリ……『コッチキナー』五助
はもうたまらない心情。じゃけんどうにんならん宿命。涙を拳じ
押しぬぐーうと 『しよわねーのや』『……』 黙って頷いた。

あん娘年頃姉さんかぶり いつか覚えた馬子唄を……やんがち唄
もこげんふーに変わり 覚えち『あん時お五助さん 本當に嬉しか
った』ち 言う日があるち信じち 流した涙無駄にすんなえ。笑顔
が戻った子守娘 辛い事もある悲しい事である人生じゃ。それが
あるき嬉しい時 喜びん味が人一倍大っきいんじゃろう。

『風邪うひくなや』『うん』『ほんなのー明日はよこいじゃきの
遊び来りゃいい』『行ってんいい』『いいとんえ じゃけんどう
ち来なええ 心配するき』『はい』 素直に言いつけを守っち ド
ドリながら家に急ぐ娘ん後姿を 五助はいっとき追いながら……馬
を引いた。涙が頬を伝わるのんやっぱ人ん親。

水車小屋ん方かる物つきしたばあさんが 背負い荷を腰う曲げち
歩いち来た。『水車〈クルマ〉え来たんな さかしいゴタルな』
『さかしいな口ばかりじ もう勝負あつたがのう』『そんくれえ
口さかしゆかりゃ しよわねーわな』『今日はトゲーナ儲けん方は
』『まあまあじゃな』『そげー言う所みると ケックシャいいん
じゃろう 縞子ん帯でん買うちくれんな』『いいで買うちゃろう』
『ふんとかえ やめちょこう 後腹せくきな』 二人は大声じ笑う
たけんどう そげな優しい心くばりん言葉が出んのん 相手を思う気
持ちが豊かじゃきじゃろう。



アオよいさめよ宿場はそこじゃ あれが街道ん石だたみ 馬ん蹄んカッポカッポ音んしち 五助ん戻り荷が宿にち一た。馬にやんのか気を利かしち女ごしが ダノモン桶をひっさげち来る。汗ん湯気がホワート立つ馬ん背中うちよいと撫ずると 荷を降ろしはじめたらポックリ履いた 近所ん娘がつーじ来た。

愛くるしい目じ五助をじっと 『お嬢さんサカシイナはいお土産げ』 ぶっきらぼうに指し出えた包み。月初めん帰り荷ん時にゃいつも竹田じゃき土産餅う買うち来ちくるる。そりー甘ゆるごつ待つ娘んなんと純粋な子供心。つーじ出たぬ見た親が『又もうおねだりするき』ち 忙しゅ追いかけたんが ダマシじゃもんじゃき石ん端しけつまじーた。

慌つるやら痛えやらじ泣くにも泣けんが お礼を言わにゃあいすまん。えーと痛え足う引きずっち来たら もう娘はムシャムシャ餅う食いよるじゃねえな。『そげな育てかたした覚えはねー』 そげ言いたそうな顔じ 『奥様心配せんでいいです わしがあげたんじゃき』 それが聞くほうじゃたまらぬ悔しさ。

『すまんなえ 家じゃヒロヒロせんのが』 『子供は皆おなじじゃき ほかん物が珍しいんじゃこと』 『……』 親ん知らん子供ん世界そこにゃ物珍しい生活に 仲間入りして一子供心が浮き彫りもされちよる。自分かたじゃどげーいいもん食うてん 隣ん麦飯うめーもんじゃき強がりゃ禁物。

五助さんも母親の気持ちゃ痛いはず解るが 子供ん正直な気持ちが嬉しゅうじ そんな反対に母親ん差別じんだ考えに 可哀相な感情も湧いちくる。『どげーあるかのや はい食いなあ』 『うん うめえなえ』 笑顔が崩れち口ん傍んアンが 平口にゆう似合う。母親ん心貧しいに泣きてえごたる五助。思い代えち母子と連れのうち話す道を親子の影が 細長う写し気持ちも落ち着くごたる。



五助ん涙はむげねこされ

こんめ一時かる隣じ育ちマルジ子供んごつ むどがった娘が嫌うぬ一潮時ち無理に勧めち 歩いたんがもう3年前じゃつた。それがあげ一嫌いよったんが縁た一ゆうしたもん。なかなかどうしち愛縁ちゆうんか 夫婦仲もいいに働き者じゃき みんなかる好かれちよる。姑も目に入れてん痛うね一ち自慢する。

五助さんがこん頃風邪うひいたんか ちっとヨロケたごたるにかぶさうちするごつ 弱っち顔色もゆうねえ。そげな話う誰が言うたんかタマガッチ そんな娘が見舞いにつ一じ帰った。心配させめ一ち元気な所う見せたもんじゃき 安心しちチッタ心残りもするけんど 帰るこち一なっち暇乞い。馬子唄う聞きてえち甘ゆる。

無理かん知れんじゃが断わりゃ ムゲノーモアル。勇氣震いたたせち唄う馬子唄あ山かる里に響く。『それ以上は唄わすんな』周りんしが 心配すりゃ五助は娘ん気持ちに添えんち。齒を食いしばち唄ううち 色目があがち真っ青になった。見兼ねた近所んしたちちもう おおごつじゃち止めさゆうちするが。

娘は飛びよっち涙むせばせち 『もういい もういい五助さん』真剣堪えて流すまいと思うたに 五助ん目から涙ポロポロ。抱きあう二人ん姿に貫い泣きする周りんしたち。甘えたい気持ちを満たした五助と 解っているのに無理強いした馬子唄。娘は許してほしいち心じつぶやき 口にゃ甘えてんいいじゃろうち 心にもね一言葉を出して恥じ入る。

倒れそうな仕種がやんがち治まっち 『心配ね一き』手じ帰れちくり返す動作に 後ろ髪引かれる思いの娘も忙しい休みに 帰ることを許してくれた家族の事も義理がある。『いいよな』『いいとん気をつきいや』 目と目で見送る心にはほのぼの光ちよつた。

ちょいと一言メモ

カンカラ…サルトリイバラ、サンキライ、カララ などから移り
変わった方言。所により異なる。

ボケない生活…神仏を信心すること。心の問題である。

仲間を大事に 気持ちよく暮らす。

人の世話に感謝する。

物を読み、聞き、書く。

よく笑い 感動を忘れない。

趣味を楽しみ 楽しい日々である。

いつも存在の 輝く人である。

人生と明かり…太陽と月が基本であった。夜明けと共に起き日暮
れと共に寝る。

火が出来て 焚き火、コエマツ、菜種油を灯芯で
使うい 行灯になる。木蠟から蠟燭が生まれて
提灯による移動も可能になる。

水力発電の電灯、ガスの発達、電池による文化器
材。

太陽光熱利用の電力、湯沸かし、省エネルギー。

風力利用発電利用。波差利用発電。原子発電。

世の中がめまぐるしく変貌する中で 古きよき時代に使われた
生活用語の方言は 書くことの不自由な時代を 生き抜いて大切に
使い受け継がれた 『生活文化財』でもあります。

取り組んだ『方言調査』が そんな意味を大切にして収拾した記
録として いつかきつと振り返って『やってよかった』と 自負出
来るそんな気持ちがしています。

おもしろ

人間なんか一言嫌わるるこつー 言わんと気のすまんしがおる。折角嫁が作っちくれた夕飯おかずに『もちっと甘えほうがいい』とか 『甘すぎる』とか。ほんな自分じ作りゃいいに そりゃせんじ箸う持ちち 待ち構えちよるなんか最低。

よけいなこと…ひよいとすりゃ違やせん。間違いなかるうな一。人並みしたんじゃろうな。みんな帰ったき残りう分くんの。もいっぺん見せんなえ。

にくたれ、文句…それでんいいんかえ。そりゃーもうかろう。本当は言いとなかったけど。他んしゃよかったんじゃな。ゆう分けたんな。残ったなどげすんの。あんしにゃゆうしたな。

透かし見る…あんしないいな。やっぱ言うた通りじゃろう。じゃき一言言いな一ち。ほらみなよかったじゃろう。あげんふうがよかろうか。ひよいとすりゃ悪いで。あんしにゃ言いなんな。あんたんこつー言いよったで。そげんふうにゃ思わん。

こげなふうに 一言多いやりとりがゆう見らるる。それが方言が入る事じ誤解が起こる事も少のうねえ。★ 『人並みしたんじゃろうな』☞疑うような えこ聳肩するような錯覚を。『皆帰ったき分くんの』☞自分も貰わねば損、半端の処分は当事者に…余分なひと言が入ると信頼まで壊す。『あんしにゃゆうしたな』☞などかけられたような文句、疑いの目で見ている嫉妬心。『そげんふうにゃ思わん』☞自分本位な考えの人が多いので 折角うまく行く事が人の指図が入って 目茶苦茶に壊れる事も少なくない。言葉の難しさもそこにあるが 方言は時として笑いを誘って 助け船ともなる。

